大学院（臨床心理学専攻）2025 年度　開講科目シラバス

臨床心理学特論Ⅰ 1
臨床心理学特論Ⅱ 3
臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援 に関する理論と実践Ⅰ) 5
☆臨床心理面接特論Ⅱ 7
臨床心理査定演習Ⅰ （心理的ｱｾｽﾒﾝﾄに関する理論と実践） 9
臨床心理査定演習Ⅱ 11
臨床心理基礎実習Ⅰ 13
臨床心理基礎実習Ⅱ 15
臨床心理実習ⅠA(心理実践実習Ⅰ) 17
臨床心理実習ⅠB(心理実践実習Ⅱ) 19
臨床心理実習ⅠC(心理実践実習Ⅲ) 21
臨床心理実習ⅠD(心理実践実習Ⅳ) 23
臨床心理実習ⅡA 25
臨床心理実習ⅡB 27
臨床心理実習ⅡC 29
臨床心理実習ⅡD 31
心理学研究法特講 33
臨床心理学研究法特講 35
人格心理学特講 37
認知心理学特講 39
社会心理学特講 41
家族心理学特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ） 43
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 45
産業・労働分野に関する理論と支援の展開 47
精神医学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開） 49
☆異常心理学特講 51
障害者心理学特講（福祉分野に関する理論と支援の展開） 53
☆心理療法特講 A 55
☆心理療法特講 B 57
☆心理療法特講 C（心理支援に関する理論と実践Ⅱ） 59
☆心理療法特講 D（心理支援に関する理論と実践Ⅲ） 61
学校臨床心理特講（教育分野に関する理論と支援の展開） 63
ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｱﾌﾟﾛｰﾁ特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ） 65
心の健康教育に関する理論と実践 67
臨床心理学研究実践Ⅰ 69
臨床心理学研究実践Ⅱ 71

科目名称	臨床心理学特論Ⅰ	科目分類	402-311-11
担当教員	綾城　初穂	授業区分	講義
オフィスアワー	前期　火曜日 14:40～17:40 後期　火曜日 14:40～17:40	研究室	10-714
授業のテーマ・内容	公認心理師・臨床心理士となる上で必要不可欠な専門職としての知識及び資質を培うことを目指す。臨床心理学の歴史、法律、理論、研究、実践領域、実践方法など、専門的な学習を行ううえで前提となる知識を学ぶ。また、プレゼンテーションを通して、実践の基盤となる適切な情報集約の仕方や聞き手のことを踏まえたコミュニケーションの在り方についても修得することが目的となる。		
到達目標	公認心理師・臨床心理士になる上で必要となる専門職としての基礎知識及び基本的態度を身につける。		

各回の授業内容と課題学習

第１回　イントロダクション
第２回　公認心理師の職責①（テキスト第１部１～６）
第３回　公認心理師の職責②（テキスト第１部７～１１）
第４回　臨床心理学概論①（テキスト第３部１～４）
第５回　臨床心理学概論②（テキスト第３部５～８）
第６回　心理学研究法（テキスト第４部１～３）
第７回　心理的アセスメント①（テキスト第１４部１～４）
第８回　心理的アセスメント②（テキスト第１４部５～８）
第９回　心理的アセスメント③（テキスト第１４部９～１１）
第１０回　心理支援①（テキスト第１５部１～４）
第１１回　心理支援②（テキスト第１５部５～８）
第１２回　心理支援③（テキスト第１５部９～１１）
第１３回　精神疾患とその治療①（テキスト第２２部１～５）
第１４回　精神疾患とその治療②（テキスト第２２部６～１０）
第１５回　関係行政論（テキスト第２３部１～５）

テキスト・教材	岩壁 茂他（編）(2023). 臨床心理学スタンダードテキスト 金剛出版
参考書	スーザン・レウェリン ＆ ケイティ・アフェス-ヴァン・ドーン『臨床心理学入門』（東京大学出版会） Kramer, et al.『Introduction to clinical psychology 8th edition』（Cambridge University Press） McLeod, J.『An introduction to counselling psychotherapy 6th edition』（Open University Press）
評価の基準と方法	プレゼンテーション技能（30 点）、プレゼンテーション内容（30 点）、授業への参加・貢献（40 点）の合計 100 点で評価する
授業開始前学習	特に必要ない
授業内課題のフィードバックの方法	学生によるプレゼンテーションの技能や内容、関連する知識については、授業中に教員からフィールドバックする。
準備学習（予習）	各講義の該当箇所を読んでおくとともに、発表者は資料を作成すること。
準備学習（復習）	授業に関する資料の見返し

ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	△	

関連科目	
その他	第 1 回目以外は院生によるプレゼンテーションを行う。受講者数によっては担当箇所が多くなる可能性があることに留意すること。 進度の都合により内容・講義順序を一部変更する可能性がある。

科目名称	臨床心理学特論Ⅱ	科目分類	402-311-11
担当教員	藤城　有美子	授業区分	講義
オフィスアワー	前期　金曜日 14:30～17:30 後期　金曜日 14:30～17:30	研究室	10-710
授業のテーマ・内容	心理臨床活動の実践において質の維持・向上のためには、新たな知見を常にアップデートしていく必要がある。本講前半では、各自が選んだ臨床心理学の先行研究、特に調査研究の学術論文を検討の素材とし、クリティカル・リーディングのスキルを身につける。また、公認心理師、臨床心理士としての将来の活動の土台を形成するために、本講後半では、臨床心理学の実践面に目を向け、心理面接の導入期からアセスメント、心理療法に至るまでの過程で遭遇しやすい問題を取り上げる。		
到達目標	1. 臨床心理の実践に必要な専門文献について、クリティカルな読み方ができる。 2. 臨床心理面接の流れについて、説明できる。 3. 臨床心理面接で生じうる問題点について、説明できる。 4. 臨床心理面接で必要となる記録や書類の書き方が、理解できる。		

各回の授業内容と課題学習

以下全回、発表とディスカッションを含む。なお、受講者数によって、クリティカルリーディングの回数を調整することがある。

1. 研究的アプローチ 1：アカウンタビリティとエビデンス
2. 研究的アプローチ 2：クリティカル・リーディング（説明）
3. 研究的アプローチ 3：クリティカル・リーディング（練習）
4. 研究的アプローチ 4：クリティカル・リーディング
5. 研究的アプローチ 5：クリティカル・リーディング
6. 研究的アプローチ 6：クリティカル・リーディング
7. 研究的アプローチ 7：クリティカル・リーディング
8. 研究的アプローチ 8：クリティカル・リーディング
9. 研究的アプローチ 9：クリティカル・リーディング
10. 研究的アプローチ 10：クリティカル・リーディング
11. 臨床心理学実践 1：初心者の期待，職業的責任，準備
12. 臨床心理学実践 2：初回面接，コンサルテーション，スタッフ会議
13. 臨床心理学実践 3：治療開始，治療セッションの進め方，治療技法
14. 臨床心理学実践 4：危機的状況，終結，記録
15. 臨床心理学実践 5：共同治療，子どもと家族，技術の向上

テキスト・教材	JS ザロ他著　1987　心理療法入門―初心者のためのガイド　誠信書房		
参考書	J メルツォフ（著）2005　クリティカルシンキング―研究論文篇　北大路書房 その他、随時紹介する。		
評価の基準と方法	所定の出席数を満たした者について、出席点（3 点×15 回の計 45 点）、課題点（3 回提出：15 点＋20 点＋20 点の計 55 点）を評価する。なお、出席点は、授業中のディスカッション等への取り組み態度等を評価する。		
授業開始前学習	発表者は配付資料を用意・提示のこと。講義では、司会、発表者等を順番に担当する。クリティカルリーディングで使用する論文については、発表担当者は論文で用いられている基本用語も説明できるようにしておく。		
授業内課題のフィードバックの方法	当日の発表やディスカッションの内容については、その場で教員が解説ないしはフィードバックをする。また、提出課題については、コメントを付けて返却する。		
準備学習（予習）	発表者以外も文献や発表資料を読み、当日のディスカッションに参加できるようにしておく。		
準備学習（復習）	発表およびディスカッションの内容について、疑問点を整理しておく。		
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当	○	○	◎	△	
関連科目	臨床心理学面接特論Ⅱ				
その他					

科目名称	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援 に関する理論と実践Ⅰ)	科目分類	402-311-11
担当教員	綾城 初穂	授業区分	講義
オフィスアワー	前期 火曜日 14:40～17:40 後期 火曜日 14:40～17:40	研究室	10-714
授業のテーマ・内容	臨床心理面接の基本的な技能と態度を学習することを目的とする。特に本授業では、クライエントを孤立した個人として捉えるのではなく様々な文脈の中に位置づく存在として捉え、クライエントと協働する臨床心理面接がどのように達成できるかについて学んでいく。また、多文化的的な視点や学習者自身の省察も一貫して取り上げていく。		
到達目標	1．臨床心理面接の基本的な技能と態度を修得できる。 2．文脈的・多文化的視点を獲得できる。 3．省察的態度を獲得できる。		

各回の授業内容と課題学習

第１回　イントロダクション
第２回　カウンセリングと文化及びケア①：文脈の理解（教科書 1 頁-15 頁）
第３回　カウンセリングと文化及びケア②：関係性の理解（教科書 16 頁～29 頁）
第４回　治療的会話（教科書 30 頁～46 頁）
第５回　受容的態度（教科書 47 頁～61 頁）
第６回　傾聴（教科書 62 頁～72 頁）
第７回　関係構築の重要性（教科書 73 頁～85 頁）
第８回　関係構築における様々な観点（教科書 86 頁～98 頁）
第９回　意味の受け取り（教科書 99 頁～111 頁）
第１０回　意味の読み取り（教科書 112 頁～127 頁）
第１１回　確認による応答（教科書 128 頁～141 頁）
第１２回　要約による応答（教科書 142 頁～158 頁）
第１３回　問題の聞き取り（教科書 159 頁～174 頁）
第１４回　希望の聞き取り（教科書 175 頁～190 頁）
第１５回　臨床心理面接における重要な視点とは

テキスト・教材	パレ，D. A（著）能智正博・綾城初穂（監訳）(2022). 協働するカウンセリングと心理療法――文化とナラティヴをめぐる臨床実践テキスト 新曜社. (Pare, D. A.『The practice of collaborative counseling & psychotherapy: Developing skills in culturally mindful helping.』(Sage)
参考書	土居健郎『新訂 方法としての面接』（医学書院） 熊倉伸宏『面接法 追補版』（新興医学出版社）
評価の基準と方法	プレゼンテーションの内容・理解度（70 点）、自己省察（30 点）
授業開始前学習	特に必要ない
授業内課題のフィードバックの方法	学生によるプレゼンテーションの技能や内容、関連する知識については、授業中に教員からフィールドバックする。
準備学習（予習）	各講義の該当箇所を読んでおくとともに、発表者は資料を作成すること。
準備学習（復習）	授業に関する資料の見返し
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。 心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。 心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当	△		◎	○	○

関連科目	臨床心理面接特論Ⅱ 心理療法特講Ｃ（心理支援に関する理論と実践Ⅱ） 心理療法特講Ｄ（心理支援に関する理論と実践Ⅲ）
その他	公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、「心理支援に関する理論と実践」はⅠⅡⅢの全てを履修する必要がある。

科目名称	☆臨床心理面接特論Ⅱ	科目分類	402-311-11
担当教員	飯田・藤城	授業区分	講義
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	本授業の前半は、初回面接の具体的な手順、また、倫理的問題など初回面接に関わる諸問題を文献講読によって学ぶ（発表、討論）。 後半では、ロールプレイングによって実際に初回面接を模擬的に施行することを通して、初回面接の力量と見識を身につける。		
到達目標	1. 初回面接の前に必要な準備が説明できる。 2. 初回面接の具体的手順が説明できる。 3. 臨床心理学的実践に関わる倫理的配慮が説明できる。 4. 初回面接において適切な応答ができる。		

各回の授業内容と課題学習

以下全回、演習形式で進める。

1. ガイダンス
2. 初回面接とは
3. 受付と面接前の準備
4. 場の説明と守秘義務
5. 主訴の把握
6. 生育歴・問題歴の把握
7. 精神状態の査定
8. 契約とリファー
9. ロールプレイの説明
10. ロールプレイの実施　短時間のロールプレイ
11. ロールプレイの実施と振り返り　その１（前半）
12. ロールプレイの実施と振り返り　その１（後半）
13. ロールプレイの実施と振り返り　その２（前半）
14. ロールプレイの実施と振り返り　その２（後半）
15. 初回面接を終える　まとめ

テキスト・教材	授業内で指示する。		
参考書	授業内で適宜紹介する。		
評価の基準と方法	3 分の 2 以上の出席が単位取得の前提条件である。授業への参加と発表、レポートにより総合的に 100 点満点で評価する。 前半：発表（資料作成、発表、司会、指定討論を含む）50 点、参加状況は減点法。 後半：レポート 50 点、参加状況は減点法。		
授業開始前学習	発表担当課題については、事前にそのテーマに関する文献を調べてレジュメを作成し、人数分を用意すること。		
授業内課題のフィードバックの方法	当日の発表、ディスカッション、ロールプレイ課題については、その場で解説・フィードバックする。		
準備学習（予習）	前半（第 8 回まで）：指定テーマについて各自が文献を読み込み、ディスカッションできるよう準備しておく。 後半（第 9 回から）：ロールプレイの題材準備や、テープ起こしなど発表に必要な資料を用意する。		
準備学習（復習）	前半：ディスカッションの要点を整理し、重要な専門用語・概念については記憶する。 後半：ロールプレイについて振り返り、優れていた点、問題・改善点などを整理する。		
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当	△		◎	○	○
関連科目	臨床心理学特論Ⅱ				
その他					

臨床心理査定演習Ⅰ（心理的ｱｾｽﾒﾝﾄに関する理論と実践）

科目名称	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的ｱｾｽﾒﾝﾄに関する理論と実践）	科目分類	402-311-21
担当教員	飯田･依田	授業区分	演習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ･内容	心理的アセスメントは、人間の心理的特性を幅広く測定･評価するという点で、単なる病理診断とは異なる。心理的アセスメントの意義と基本的視点を学び、さらに心理的アセスメントとして用いられることの多い心理検査の中から、ウェクスラー式の知能検査を中心に理論と方法を修得する。また、心理に関する相談、助言、指導等への応用について学ぶ。		
到達目標	①心理的アセスメントの特徴と意義について正しい理解を身につける。 ②心理的アセスメントに関する理論と方法を修得する。 ③心理に関する相談、助言、指導等への応用を学ぶ。		

各回の授業内容と課題学習

1．ガイダンス　心理的アセスメントの意義
2．心理的アセスメントの理論と方法
3．心理的アセスメントと協働
4．協働の実践：SCT（文章完成法）を例に
5．知能検査･発達検査①：WAIS（ウェクスラー成人知能検査）の概要
6．WAIS の実施法と採点･解釈　その 1
7．WAIS の実施法と採点･解釈　その 2
8．WAIS の実施法と採点･解釈　その 3
9．WAIS の事例と所見
10．神経心理学検査
11．知能検査･発達検査②：WISC（ウェクスラー児童知能検査）の概要
12．WISC の実施法と採点･解釈　その 1
13．WISC の実施法と採点･解釈　その 2
14．WISC の事例と所見
15．知能検査･発達検査③：田中ビネーV

テキスト･教材	授業内で指示する。
参考書	適宜紹介する。
評価の基準と方法	授業内でレポートを提出する。評価はレポート（90%）と授業の参加状況（10%）とにより、総合的に判断する。
授業開始前学習	心理的アセスメントに関する基本的知識を予習しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	提出されたレポートにコメントをつけて返却する。
準備学習（予習）	次の授業で扱うテーマについて、事前に資料等を読んでおくこと。
準備学習（復習）	授業で扱った内容について、適宜振り返り、理解を定着させておくこと。
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。 心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。 心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当	△		◎	○	○

関連科目	臨床心理査定演習Ⅱ、精神医学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開）、人格心理学特講、異常心理学特講など。
その他	正式科目名「臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）」 公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、本科目を履修する必要がある。

科目名称	臨床心理査定演習Ⅱ	科目分類	402-311-21
担当教員	飯田・依田	授業区分	演習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	心理査定の実施とその解釈、所見のまとめ方を学ぶ。ロールシャッハ・テストを中心に、実施の方法、スコアリング、量的分析、継起分析を学ぶ。また、ロールシャッハ・テストの事例を通じて、病理の現われ方を学ぶ。さらにテスト・バッテリーを組むことによって、パーソナリティを多層的に捉えることについて学ぶ。また、得られた情報をクライエントにどのようにフィードバックするか、その実際を修得する。		
到達目標	①投映法の中でも実施する機会の多いロールシャッハ・テストを中心に、その実施法、スコアリング、量的分析、継起分析を修得する。 ②ロールシャッハ・テストの事例を通して、病理の現われをつかむ力をつける。 ③心理検査を通して得られた情報をクライエントにフィードバックする際の注意点を学ぶ。		

各回の授業内容と課題学習
1．ガイダンス　ロールシャッハ・テストの意義 2．テストバッテリーとロールシャッハ・テスト　および片口法の概要 3．片口法の実施法とスコアリング・解釈　その 1 4．片口法の実施法とスコアリング・解釈　その 2 5．片口法の実施法とスコアリング・解釈　その 3 6．片口法の事例と所見　その 1 7．片口法の事例と所見　その 2 8．片口法の事例と所見　その 3 9．ロールシャッハ・テストとテストバッテリー 10．総合所見・フィードバック所見の作成　その 1 11．総合所見・フィードバック所見の作成　その 2 12．総合所見・フィードバック所見の作成　その 3 13．フィードバック演習　その 1 14．フィードバック演習　その 2 15．フィードバック演習　その 3

テキスト・教材	片口安史（監修）藤岡新治・松岡正明（著） 『ロールシャッハ・テストの学習：片口法スコアリング入門』（金子書房）
参考書	1）片口安史『改訂 新・心理診断法』（金子書房） （簡易版 小野和雄『ロールシャッハ・テスト その実施・解釈・臨床例』（川島書店）　） 2）馬場禮子『改訂 ロールシャッハ法と精神分析：継起分析入門』（岩崎学術出版社） 3）小此木圭吾・馬場禮子『精神力動論』（金子書房） 4）馬場禮子（編）『力動的心理査定：ロールシャッハ法の継起分析を中心に』（岩崎学術出版社） 5）馬場禮子（編）『心理療法と心理検査』（日本評論社） 6）加藤志ほ子・吉村聡『ロールシャッハテストの所見の書き方：臨床の要請にこたえるために』（岩崎学術出版社） 7）小此木圭吾・馬場礼子『精神力動論』（金子書房） 参考：エクスナー法に興味のある人 8）藤岡淳子『包括システムによるロールシャッハ臨床：エクスナーの実践的応用』（誠信書房）
評価の基準と方法	授業で学んだ検査法について、所見の形でレポートを提出する。評価はレポート（90%）と授業の参加状況（10%）とにより、総合的に判断する。
授業開始前学習	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）で学んだアセスメントの理論を確認しておくこと。 初回授業までに、ロールシャッハ・テストの受検を体験しておくことが望ましい。詳細については、事前に担当教員から説明をする。
授業内課題のフィードバックの方法	提出されたレポートにコメントをつけて返却する。

準備学習（予習）	次の授業で扱うテーマについて、事前に教科書等を読んでおくこと。				
準備学習（復習）	授業で扱った内容について、適宜振り返り、理解を定着させておくこと。				
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。		
学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当	△		◎	○	○
関連科目	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）、精神医学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開）、人格心理学特講、異常心理学特講など。				
その他					

科目名称	臨床心理基礎実習Ⅰ	科目分類	402-311-31
担当教員	藤川・笠原	授業区分	実習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	学外実習への準備として、学内で行う臨床実習である。まず、カウンセリングの基本的態度やカウンセリングによる人間理解のあり方を身につける。次に、臨床心理面接の実践技能を解説し、ロールプレイを通して技能を習得する。現場で実践活動を行うための最低限の技能を習得することが目的となる。		
到達目標	基礎的な面接技法（共感的面接技能、査定的面接技能）を実施することができる。専門職としてのあり方について、自らの体験を省みて説明することができる。		

各回の授業内容と課題学習

第１回　臨床心理面接法とは
第２回　援助の専門家としてのカウンセラー
第３回　援助モデルの概観
第４回　共感的面接技能１
第５回　共感的面接技能２
第６回　ロールプレイ実習１とグループ討議１
第７回　ロールプレイ実習１とグループ討議２
第８回　ロールプレイ実習１とグループ討議３
第９回　ロールプレイ実習１とグループ討議４
第 10 回　査定的面接技能１
第 11 回　査定的面接技能２
第 12 回　ロールプレイ実習２とグループ討議１
第 13 回　ロールプレイ実習２とグループ討議２
第 14 回　ロールプレイ実習２とグループ討議３
第 15 回　ロールプレイ実習２とグループ討議４　授業の振り返り　レポート提出

テキスト・教材	特に指定しない（授業中に随時資料を配付する）。
参考書	『協働するカウンセリングと心理療法』D・パレ（著）新曜社 『熟練カウンセラーをめざすカウンセリング・テキスト』 G・イーガン（著）　創元社 『心理臨床の基礎１：心理臨床の発想と実践』岩波書店　下山晴彦（著）
評価の基準と方法	全回出席が基本。授業への積極的貢献（50 点）、発表（40 点）、期末レポート（10 点）の総合評価を行う。
授業開始前学習	これまでに学部の科目で学んだ面接法について復習しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	発表・レポートや課題に対して、受講者同士によるディスカッションと教員によるコメントによってフィードバックを行う。
準備学習（予習）	各回の前に課題を配布することがある。また、テキスト講読の回は、発表者以外も該当箇所を精読し、疑問点やコメントを用意しておくこと。
準備学習（復習）	ロールプレイを授業時間外に実施し、逐語記録を作成することが求められる。また、自分自身の臨床観や経験を省みるための小レポートや課題が課されることがある。
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。 心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。 心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当	△		○	○	◎

関連科目	臨床心理基礎実習Ⅱ
その他	臨床心理士対応科目である。 また、臨床心理実習ＩＡ（心理実践実習Ⅰ）、臨床心理実習ＩＢ（心理実践実習Ⅱ）、臨床心理実習ＩＣ（心理実践実習Ⅲ）　臨床心理実習ＩＤ（心理実践実習Ⅳ）を履修するための前提として本科目の単位を取得することが求められる。

科目名称	臨床心理基礎実習Ⅱ	科目分類	402-311-31
担当教員	綾城・飯田・齊藤・藤川・藤城・依田	授業区分	実習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	学外実習への準備として、学内で行う臨床実習である。他大学院と合同で試行カウンセリング実習を行い、セラピスト体験やクライエント経験を通して臨床心理面接の基礎的な実践技能、心理査定に関する知識と技能、ケース・マネジメントに関する技能、職業倫理・法的義務について理解を深める。		
到達目標	試行カウンセリング実習において、セラピストやクライエントとして継続面接を経験することを通して、臨床心理面接の基礎的な実践技能、心理査定に関する知識と技能、ケース・マネジメントに関する技能、職業倫理・法的義務を身につける。		

各回の授業内容と課題学習

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　担当ケースに関する事前指導
第 3 回　セラピスト体験 1
第 4 回　記録作成とスーパービジョン 1
第 5 回　クライエント体験 1
第 6 回　セラピスト体験 2
第 7 回　記録作成とスーパービジョン 2
第 8 回　クライエント体験 2
第 9 回　セラピスト体験 3
第 10 回　記録作成とスーパービジョン 3
第 11 回　クライエント体験 3
第 12 回　セラピスト体験 4
第 13 回　記録作成とスーパービジョン 4
第 14 回　クライエント体験 4
第 15 回　グループ討議　レポート提出

テキスト・教材	特に指定しない。
参考書	『臨床心理学をまなぶ 2　実践の基本』 東京大学出版会　下山晴彦（著）
評価の基準と方法	全回出席が基本である。実習への参加・参加態度・グループ討議への積極的貢献（40 点）・個別スーパービジョンでの発表（50 点）・レポート（10 点）の総合評価を行う。
授業開始前学習	ガイダンス資料に目を通しておくこと。
授業内課題のフィードバックの方法	セラピスト役の記録作成とスーパービジョンは教員により個別に指導する。全体の振り返りとなる発表とレポート課題については、受講者同士によるディスカッションと教員によるフィードバックを行う。
準備学習（予習）	実習記録の作成と課題に関する考察を行う。
準備学習（復習）	指導の内容を復習し、次回実習の課題点を確認しておく。

ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当	△		○	○	◎

関連科目	臨床心理基礎実習Ⅰ

その他	主たる担当教員：藤川 麗 臨床心理士対応科目である。 また、臨床心理実習ＩＢ（心理実践実習Ⅱ）、臨床心理実習ＩＣ（心理実践実習Ⅲ） 臨床心理実習ＩＤ（心理実践実習Ⅳ）を履修するための前提として本科目の単位を取得することが求められる。

科目名称	臨床心理実習ＩＡ(心理実践実習Ｉ)	科目分類	402-321-31
担当教員	綾城･飯田･齊藤･藤川･藤城･依田	授業区分	実習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ･内容	公認心理師･臨床心理士に必要な知識･技能の基礎的な理解にもとづき、学外実習施設（教育分野）において、心理に関する支援を必要とする人に対して支援を実施しながら、実習指導者または実習担当教員による指導を受けて、(ア)心理に関する支援を要する者に関する知識及び技能の修得、(イ)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(ウ)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(エ)多職種連携及び地域連携、(オ)職業倫理及び法的義務への理解、を修得する。		
到達目標	教育現場での心理支援に参加し、立場や役割が異なる多職種と連携をはかりつつ、チームの一員として児童生徒及び教職員とコミュニケーションをとり、心理的援助の技能を修得する。児童生徒個人及び集団を観察し、ニーズを把握する能力、現場と状況に応じた支援計画を作成する能力、コミュニケーションを円滑に取る能力を養うとともに、教職員をはじめとする多職種とのチームミーティングに参加し、支援に必要な情報を共有する必要性やその活用法について学ぶ。こうした関わりを通して、職業倫理や法的義務について理解を深める。		

各回の授業内容と課題学習

1.ガイダンス
2.倫理について
3.教育現場における臨床的活動の理解①（グループスーパービジョン）
4.教育現場における臨床的活動の理解②（グループスーパービジョン）
5.教育現場における臨床的活動の理解③（グループスーパービジョン）
6.教育現場における臨床的活動の理解④（グループスーパービジョン）
7.教育現場における臨床的活動の理解⑤（グループスーパービジョン）
8.教育現場における臨床的活動の理解⑥（グループスーパービジョン）
9.教育現場における臨床的活動の理解⑦（グループスーパービジョン）
10.教育現場における臨床的活動の理解⑧（グループスーパービジョン）
11.教育現場における臨床的活動の理解⑨（グループスーパービジョン）
12.教育現場における臨床的活動の理解⑩（グループスーパービジョン）
13.報告会準備
14.報告会
15.前期の振り返りとまとめ

テキスト･教材	授業中に適宜プリントを配布する		
参考書	講義内で紹介する		
評価の基準と方法	･実習への参加･実習日誌の提出･外部評価（６０%） ･授業への貢献･レポート（４０%）		
授業開始前学習	･実習報告会への出席 ･事前準備に関する自己評価		
授業内課題のフィードバックの方法	実習日誌について、返却時にコメントをし、質問への回答を行う。		
準備学習（予習）	①実習前に、精神医学･発達心理学等の必要な知識を習得する ②毎回の実習前に実習目標の明確化を行う ③実習日誌を作成し、GSV の準備をする		
準備学習（復習）	①GSV の内容を、実習先において実践する ②実習内容を、実習日誌、報告会、において言語化する		
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	○	○	◎
関連科目	臨床心理実習ＩＢ（心理実践実習Ⅱ）、臨床心理実習ＩＣ（心理実践実習Ⅲ）、臨床心理実習ＩＤ（心理実践実習Ⅳ）				
その他	主たる担当教員：齊藤和貴・綾城初穂・依田尚也 公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、「心理実践実習」はＩⅡⅢⅣの全てを履修する必要がある。 「臨床心理基礎実習Ⅰ」を履修済みであること 「精神医学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」を履修済みであること				

科目名称	臨床心理実習ＩＢ(心理実践実習Ⅱ)	科目分類	402-321-32
担当教員	綾城･飯田･齊藤･藤川･藤城･依田	授業区分	実習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ･内容	公認心理師･臨床心理士に必要な知識･技能の基礎的な理解にもとづき、学外実習施設（保健医療分野）において、心理に関する支援を必要とする人に対して支援を実施しながら、実習指導者または実習担当教員による指導を受けて、（ア）心理に関する支援を要する者に関する知識及び技能の修得、（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、（エ）多職種連携及び地域連携、（オ）職業倫理及び法的義務への理解、を修得する。		
到達目標	1. 当該分野で求められる知識を応用して、要支援者への支援を理解することができる。 2. 要支援者の問題を見立て、支援計画を立てることができる。 3. 他職種を理解し、チームとして連携できる。 4. 実習指導者による指導の下、要支援者に対する心理的援助を行うことができる。 5. 実習指導者による指導の下、必要に応じて 関係者に対する心理的援助等を行うことができる。 6. カンファレンス等に参加し、情報を適切に提供することができる。 7. 職業倫理や法的義務に則り、支援を適切に行うことができる。		

各回の授業内容と課題学習

1. ガイダンス
2. 実習規則と倫理の確認
3. グループ･カンファレンス 1
4. グループ･カンファレンス 2
5. グループ･カンファレンス 3
6. グループ･カンファレンス 4
7. グループ･カンファレンス 5
8. グループ･カンファレンス 6
9. グループ･カンファレンス 7
10. グループ･カンファレンス 8
11. グループ･カンファレンス 9
12. グループ･カンファレンス 10
13. グループ･カンファレンス 11
14. グループ･カンファレンス 12
15. 実習報告会

テキスト･教材	必要に応じて随時紹介する
参考書	必要に応じて随時紹介する
評価の基準と方法	授業への出席と参加態度（25 点）、授業での報告内容（25 点）、提出物の提出状況と内容（25 点）、〈実習先による評価〉実習への参加と参加態度（25 点）の計 100 点で評価する。
授業開始前学習	事前課題（倫理に関する課題、実習目標）に取り組み、指定された期日までに提出する。
授業内課題のフィードバックの方法	発表された課題、事例、ディスカッションの内容については、担当教員が授業内にフィードバックする。また、日誌や自己評価等については、後日コメントをつけて本人にフィードバックする。
準備学習（予習）	発表者はカンファレンスのレジュメを準備する。
準備学習（復習）	実習日誌を毎回提出する。また、時期に応じて自己評価（計 3 回）も提出する。カンファレンスで取り上げられた内容、対応、重要な専門用語･概念について、整理しておく。

<table>
<tr><td>ディプロマポリシー</td><td colspan="2">心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。</td><td colspan="2">心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。</td><td colspan="2">心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。</td></tr>
<tr><td>学修指針</td><td>総合力</td><td>判断力</td><td>専門力</td><td>技術力</td><td>実践力</td></tr>
<tr><td>科目の該当</td><td></td><td>△</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="5">臨床心理実習ＩＡ（心理実践実習Ⅰ）、臨床心理実習ＩＢ（心理実践実習Ⅱ）、臨床心理実習ＩＣ（心理実践実習Ⅲ）。
「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」、「精神医学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」を履修済みであること。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5">主たる担当教員：飯田・齊藤・藤城
公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、本科目を履修する必要がある。</td></tr>
</table>

科目名称	臨床心理実習ＩＣ(心理実践実習Ⅲ)	科目分類	402-321-32
担当教員	綾城･飯田･齊藤･藤川･藤城･依田	授業区分	実習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ･内容	公認心理師･臨床心理士に必要な知識･技能の基礎的な理解にもとづき、学外実習施設（福祉分野）において、心理に関する支援を必要とする人に対して支援を実施しながら、実習指導者または実習担当教員による指導を受けて、（ア）心理に関する支援を要する者に関する知識及び技能の修得、（イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、（ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、（エ）多職種連携及び地域連携、（オ）職業倫理及び法的義務への理解、を修得する。		
到達目標	1. 当該分野で求められる知識を応用して、要支援者への支援を理解することができる。 2. 要支援者の問題を見立て、支援計画を立てることができる。 3. 他職種を理解し、チームとして連携できる。 4. 実習指導者による指導の下、要支援者に対する心理的援助を行うことができる。 5. 実習指導者による指導の下、必要に応じて 関係者に対する心理的援助等を行うことができる。 6. カンファレンス等に参加し、情報を適切に提供することができる。 7. 職業倫理や法的義務に則り、支援を適切に行うことができる。		

各回の授業内容と課題学習

1. ガイダンス
2. 実習規則と倫理の確認
3. グループ･カンファレンス 1
4. グループ･カンファレンス 2
5. グループ･カンファレンス 3
6. グループ･カンファレンス 4
7. グループ･カンファレンス 5
8. グループ･カンファレンス 6
9. グループ･カンファレンス 7
10. グループ･カンファレンス 8
11. グループ･カンファレンス 9
12. グループ･カンファレンス 10
13. グループ･カンファレンス 11
14. グループ･カンファレンス 12
15. 実習報告会

テキスト･教材	必要に応じて随時紹介する
参考書	必要に応じて随時紹介する
評価の基準と方法	授業への出席と参加態度（25 点）、授業での報告内容（25 点）、提出物の提出状況と内容（25 点）、〈実習先による評価〉実習への参加と参加態度（25 点）の計 100 点で評価する。
授業開始前学習	事前課題（倫理に関する課題、実習目標）に取り組み、指定された期日までに提出する。
授業内課題のフィードバックの方法	発表された課題、事例、ディスカッションの内容については、担当教員が授業内にフィードバックする。また、日誌や自己評価等については、後日コメントをつけて本人にフィードバックする。
準備学習（予習）	発表者はカンファレンスのレジュメを準備する。
準備学習（復習）	実習日誌を毎回提出する。また、時期に応じて自己評価（計 3 回）も提出する。カンファレンスで取り上げられた内容、対応、重要な専門用語･概念について、整理しておく。

<table>
<tr><td>ディプロマポリシー</td><td colspan="2">心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。</td><td colspan="2">心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。</td><td colspan="2">心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。</td></tr>
<tr><td>学修指針</td><td>総合力</td><td>判断力</td><td>専門力</td><td>技術力</td><td>実践力</td></tr>
<tr><td>科目の該当</td><td></td><td>△</td><td>○</td><td>○</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>関連科目</td><td colspan="5">臨床心理実習ＩＡ（心理実践実習Ⅰ）、臨床心理実習ＩＢ（心理実践実習Ⅱ）、臨床心理実習ＩＤ（心理実践実習Ⅳ）。
「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」、「精神医学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」を履修済みであること。</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="5">主たる担当教員：飯田・齊藤・藤城
公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、本科目を履修する必要がある。</td></tr>
</table>

科目名称	臨床心理実習ＩＤ(心理実践実習Ⅳ)	科目分類	402-321-32
担当教員	綾城･飯田･齊藤･藤川･藤城･依田	授業区分	実習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ･内容	公認心理師･臨床心理士に必要な知識･技能の基礎的な理解にもとづき、学内実習施設である心理相談センターにおいて、心理に関する支援を必要とする人に対して支援を実施しながら、実習担当教員または実習指導者による指導を受けて、以下について習得する。 （ア）心理に関する支援を要する者に関する以下の知識及び技能の修得 （イ）心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 （ウ）心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ （エ）他職種連携及び地域連携 （オ）職業倫理及び法的義務への理		
到達目標	受付研修と心理面接や心理査定のケースを担当する経験を通して、社会人としての基本的なコミュニケーション能力や基礎的な心理面接の技能を身につける。また、インテーク面接や心理検査への陪席、インテーク･カンファレンスへの参加、ケース担当により、心理査定のための基礎的な知識を身につけ、支援計画を立てる能力を養う。ケース担当や地域貢献活動への参加により、ケース担当者間のチームワーク、ケース関係者との連携や地域連携の視点と技能を養う。ケース担当や相談機関の運営により、職業倫理や法的義務について理解を深める。		

各回の授業内容と課題学習

1.ガイダンス　心理相談センターの運営について
2.記録の作成方法と管理について
3.受付研修１（ガイダンスとロールプレイ）
4.受付研修２（受付研修の担当）
5.初期ケースの理解１（インテーク･カンファレンスへの参加）
6.初期ケースの理解２（インテーク陪席）
7.地域貢献活動への参加１（公開講座の運営）
8.地域貢献活動への参加２（公開講座の運営２）
9.ケースの担当とスーパービジョン体験１
10.ケースの担当とスーパービジョン体験２
11.ケースの担当とスーパービジョン体験３
12.ケースの担当とスーパービジョン体験４
13.ケースの担当とスーパービジョン体験５
14.ケースの担当とスーパービジョン体験６
15.　実習の振り返り

テキスト･教材	特に指定しない。必要なものは随時紹介する。
参考書	特に指定しない。必要なものは随時紹介する。
評価の基準と方法	実習への参加（40 点）、実習記録の提出（40 点）、授業への貢献（20 点）による。
授業開始前学習	心理相談センターガイダンス資料を精読しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	実習記録を提出して教員がコメントをフィードバックする。心理面接や心理検査のケースを担当した際には、スーパーバイザーから随時、記録作成方法や面接方法等に関する個別指導を受ける。
準備学習（予習）	担当する業務についてマニュアルや文献を確認し、理解を深める。教員から事前指導を受け、その内容を確認しておく。
準備学習（復習）	実習記録へのコメントや、発表やスーパービジョンにおけるフィードバックを踏まえ、自らの課題について省察し、今後の実践を改善する方法を検討する。

ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。		心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。	
学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	○	○	◎
関連科目	臨床心理実習ＩＡ（心理実践実習Ⅰ）、臨床心理実習ＩＢ（心理実践実習Ⅱ）、臨床心理実習ＩＣ（心理実践実習Ⅲ）				
その他	主たる担当教員：藤川 麗、齊藤 和貴 公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、本科目を履修する必要がある。 臨床心理士対応科目である。 臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱと精神医学特講を履修済みであることが履修の前提条件である。				

科目名称	臨床心理実習ⅡA	科目分類	402-311-31
担当教員	綾城・飯田・齊藤・藤川・藤城・依田	授業区分	実習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	本大学院では、修士課程の 2 年間で、学内実習施設（心理相談センター）でケース等を担当し、また、保健医療・教育・福祉分野において 1 箇所以上（公認心理師受験予定者は 3 箇所）の現場で学外実習を行うことになっている。本授業では、これら学内・学外での実習事例を報告し、グループ形式でのスーパーヴィジョンを行う。ケースの見方や関わり方について、生きた臨床事例から学び、心理臨床に携わる者としての見識を身につけることが目的である。		
到達目標	1. 事例の見立てができ、方針が立てられる。 2. 適切な臨床心理学的介入ができる。 3. 事例検討のために適切な臨床心理学的実践の資料を作成できる。 4. 事例検討の場で、適切なコメントができる。 5. 支援の場のマネジメントができる。		

各回の授業内容と課題学習
1. 学内実習（心理相談センター―研修）1
2. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 1
3. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 2
4. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 3
5. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 4
6. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 5
7. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 6
8. 学内実習（心理相談センター研修）2
9. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 7
10. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 8
11. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 9
12. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 10
13. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 11
14. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 12
15. 学内実習（心理相談センター研修）3

テキスト・教材	特定のテキストや教材は使用しない。
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価の基準と方法	5 分の 4 以上の出席が単位取得の前提条件である。演習への参加・発表における、態度や誠実性、理解度などにより（自分が発表の回：発表内容、発表ではない回：ケースコメント票）により、15 回分で 100 点満点とし、成績を評価する。 出席要件などについては、年度初めのオリエンテーションで説明する。
授業開始前学習	ケースのプレゼンテーションにあたり、遵守すべき倫理事項について確認しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	発表された事例やディスカッションの内容については、担当教員が授業内にフィードバックする。また、提出されたケースコメント票は、事例発表者にフィードバックされる。
準備学習（予習）	発表者は、原則として 2 週間前までに担当教員に提出事例を担当教員と相談し、1 週間前までに当日の配付資料について担当教員から指導を受ける指導を受ける。 発表者以外は、発表される事例について、質疑内容を準備する。
準備学習（復習）	ケース発表者は、検討された事項について整理し、振り返りを行う。 ケース発表者以外は、発表されたケースについてのコメントを毎回提出する（発表者はコメント票の内容を確認して今後の実践に活かすこと）。

ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。		心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。	
学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	○	○	◎
関連科目					
その他	学内実習（心理相談センター研修）1～3 の日程については、変更がありうる。 学外実習の事例提示を希望する場合は、実習施設および実習担当教員の許可を得ること。そのためには、日程的に余裕を持って準備する必要がある。				

科目名称	臨床心理実習ⅡB	科目分類	402-311-31
担当教員	綾城・飯田・齊藤・藤川・藤城・依田	授業区分	実習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	本大学院では、修士課程の 2 年間で、学内実習施設（心理相談センター）でケース等を担当し、また、保健医療・教育・福祉分野において 1 箇所以上（公認心理師受験予定者は 3 箇所）の現場で学外実習を行うことになっている。本授業では、これら学内・学外での実習事例を報告し、グループ形式でのスーパーヴィジョンを行う。ケースの見方や関わり方について、生きた臨床事例から学び、心理臨床に携わる者としての見識を身につけることが目的である。		
到達目標	1. 事例の見立てができ、方針が立てられる。 2. 適切な臨床心理学的介入ができる。 3. 事例検討のために適切な臨床心理学的実践の資料を作成できる。 4. 事例検討の場で、適切なコメントができる。 5. 支援の場のマネジメントができる。		

各回の授業内容と課題学習
1. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 1
2. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 2
3. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 3
4. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 4
5. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 5
6. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 6
7. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 7
8. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 8
9. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 9
10. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 10
11. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 11
12. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 12
13. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 13
14. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 14
15. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 15

テキスト・教材	特定のテキストや教材は使用しない。
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価の基準と方法	5 分の 4 以上の出席が単位取得の前提条件である。演習への参加・発表における、態度や誠実性、理解度などにより（自分が発表の回：発表内容、発表ではない回：ケースコメント票）により、15 回分で 100 点満点とし、成績を評価する。 出席要件などについては、年度初めのオリエンテーションで説明する。
授業開始前学習	ケースのプレゼンテーションにあたり、遵守すべき倫理事項について確認しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	発表された事例やディスカッションの内容については、担当教員が授業内にフィードバックする。また、提出されたケースコメント票は、事例発表者にフィードバックされる。
準備学習（予習）	発表者は、原則として 2 週間前までに担当教員に提出事例を担当教員と相談し、1 週間前までに当日の配付資料について担当教員から指導を受ける指導を受ける。 発表者以外は、発表される事例について、質疑内容を準備する。
準備学習（復習）	ケース発表者は、検討された事項について整理し、振り返りを行う。 ケース発表者以外は、発表されたケースについてのコメントを毎回提出する（発表者はコメント票の内容を確認して今後の実践に活かすこと）。

ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。		心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。	
学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	○	○	◎
関連科目					
その他	学外実習の事例提示を希望する場合は、実習施設および実習担当教員の許可を得ること。そのためには、日程的に余裕を持って準備する必要がある。				

科目名称	臨床心理実習ⅡC	科目分類	402-311-32
担当教員	綾城・飯田・齊藤・藤川・藤城・依田	授業区分	実習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	本大学院では、修士課程の 2 年間で、学内実習施設（心理相談センター）でケース等を担当し、また、保健医療・教育・福祉分野において 1 箇所以上（公認心理師受験予定者は 3 箇所）の現場で学外実習を行うことになっている。本授業では、これら学内・学外での実習事例を報告し、グループ形式でのスーパーヴィジョンを行う。ケースの見方や関わり方について、生きた臨床事例から学び、心理臨床に携わる者としての見識を身につけることが目的である。		
到達目標	1. 事例の見立てができ、方針が立てられる。 2. 適切な臨床心理学的介入ができる。 3. 事例検討のために適切な臨床心理学的実践の資料を作成できる。 4. 事例検討の場で、適切なコメントができる。 5. 支援の場のマネジメントができる。		

各回の授業内容と課題学習
1. 学内実習（心理相談センター―研修）1
2. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 1
3. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 2
4. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 3
5. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 4
6. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 5
7. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 6
8. 学内実習（心理相談センター研修）2
9. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 7
10. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 8
11. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 9
12. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 10
13. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 11
14. 学内実習（心理相談センター事例）、保健医療・教育・福祉分野実習についての検討 12
15. 学内実習（心理相談センター研修）3

テキスト・教材	特定のテキストや教材は使用しない。
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価の基準と方法	5 分の 4 以上の出席が単位取得の前提条件である。演習への参加・発表における、態度や誠実性、理解度などにより（自分が発表の回：発表内容、発表ではない回：ケースコメント票）により、15 回分で 100 点満点とし、成績を評価する。 出席要件などについては、年度初めのオリエンテーションで説明する。
授業開始前学習	ケースのプレゼンテーションにあたり、遵守すべき倫理事項について確認しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	発表された事例やディスカッションの内容については、担当教員が授業内にフィードバックする。また、提出されたケースコメント票は、事例発表者にフィードバックされる。
準備学習（予習）	発表者は、原則として 2 週間前までに担当教員に提出事例を担当教員と相談し、1 週間前までに当日の配付資料について担当教員から指導を受ける指導を受ける。 発表者以外は、発表される事例について、質疑内容を準備する。
準備学習（復習）	ケース発表者は、検討された事項について整理し、振り返りを行う。 ケース発表者以外は、発表されたケースについてのコメントを毎回提出する（発表者はコメント票の内容を確認して今後の実践に活かすこと）。

ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。		心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。	
学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	○	○	◎
関連科目					
その他	学内実習（心理相談センター研修）1～3 の日程については、変更がありうる。 学外実習の事例提示を希望する場合は、実習施設および実習担当教員の許可を得ること。そのためには、日程的に余裕を持って準備する必要がある。				

科目名称	臨床心理実習ⅡD	科目分類	402-311-32
担当教員	綾城・飯田・齊藤・藤川・藤城・依田	授業区分	実習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	本大学院では、修士課程の 2 年間で、学内実習施設（心理相談センター）でケース等を担当し、また、保健医療・教育・福祉分野において 1 箇所以上（公認心理師受験予定者は 3 箇所）の現場で学外実習を行うことになっている。本授業では、これら学内・学外での実習事例を報告し、グループ形式でのスーパーヴィジョンを行う。ケースの見方や関わり方について、生きた臨床事例から学び、心理臨床に携わる者としての見識を身につけることが目的である。		
到達目標	1. 事例の見立てができ、方針が立てられる。 2. 適切な臨床心理学的介入ができる。 3. 事例検討のために適切な臨床心理学的実践の資料を作成できる。 4. 事例検討の場で、適切なコメントができる。 5. 支援の場のマネジメントができる。		

各回の授業内容と課題学習
1. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 1
2. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 2
3. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 3
4. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 4
5. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 5
6. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 6
7. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 7
8. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 8
9. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 9
10. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 10
11. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 11
12. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 12
13. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 13
14. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 14
15. 保健医療・教育・福祉分野実習、学内実習（心理相談センター事例）についての検討 15

テキスト・教材	特定のテキストや教材は使用しない。
参考書	授業中に適宜紹介する。
評価の基準と方法	5 分の 4 以上の出席が単位取得の前提条件である。演習への参加・発表における、態度や誠実性、理解度などにより（自分が発表の回：発表内容、発表ではない回：ケースコメント票）により、15 回分で 100 点満点とし、成績を評価する。 出席要件などについては、年度初めのオリエンテーションで説明する。
授業開始前学習	ケースのプレゼンテーションにあたり、遵守すべき倫理事項について確認しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	発表された事例やディスカッションの内容については、担当教員が授業内にフィードバックする。また、提出されたケースコメント票は、事例発表者にフィードバックされる。
準備学習（予習）	発表者は、原則として 2 週間前までに担当教員に提出事例を担当教員と相談し、1 週間前までに当日の配付資料について担当教員から指導を受ける指導を受ける。 発表者以外は、発表される事例について、質疑内容を準備する。
準備学習（復習）	ケース発表者は、検討された事項について整理し、振り返りを行う。 ケース発表者以外は、発表されたケースについてのコメントを毎回提出する（発表者はコメント票の内容を確認して今後の実践に活かすこと）。

ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。		心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。	
学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	○	○	◎
関連科目					
その他	学外実習の事例提示を希望する場合は、実習施設および実習担当教員の許可を得ること。そのためには、日程的に余裕を持って準備する必要がある。				

科目名称	心理学研究法特講	科目分類	402-321-11
担当教員	冨士原　光洋	授業区分	講義
オフィスアワー	前期　水曜日 13:00～16:10 後期　水曜日 13:00～16:10	研究室	10-704
授業のテーマ・内容	臨床心理学研究に用いられる観察法と調査法（質問紙法）について、その理論と技法を詳細に学び、より有効な方法を究明する。 観察法では、特にフィールドでの有効性が注目されている参加観察法・アクションリサーチについて、研究事例をあげ有効性と問題点を明らかにする。また、調査法では、質問紙のワーディングの影響による反応の異なりやサンプリングなどの問題を扱い、実践的技法について検討を行う。 このほか、心理尺度の作成に関わる信頼性と妥当性の問題やデータ分析における統計的問題も取り上げて解説する。		
到達目標	臨床心理学研究に用いられる観察法と調査法（質問紙法）について、基本事項を説明できるようになる。 毎回の発表討論を通して、個別の研究について方法的問題点をみつけ、問題点を補完する対処法を考える能力を身につける。 コンピュータを用いたデータ分析の基本技術を身につけ、分析ができるようになる。		

各回の授業内容と課題学習

１．臨床心理学の研究方法について
２．観察法の手続きと基本事項〈観察法〉
３．参加観察法　　発表とグループ討論
４．アクションリサーチ　発表とグループ討論
５．観察法研究例の検討１　自然観察法について　発表とグループ討論
６．観察法研究例の検討２　実験的観察法について　発表とグループ討論
７．調査法の手続きと基本事項〈調査法・質問紙法〉　観察法小レポート提出
８．調査法研究例の検討１　サンプリングの妥当性から　発表とグループ討論
９．調査法研究例の検討２　調査項目の妥当性から　　発表とグループ討論
１０．心理尺度の構成について〈心理尺度構成法〉
１１．心理尺度構成上の問題点と事例　　発表とグループ討論
１２．心理学データの分析と統計１　統計知識の確認　検定から多変量解析まで
１３．心理学データの分析と統計２　検定、分析の実際　統計法小レポート提出　　発表とグループ討論
１４．心理学データの分析と統計３　質的分析について　発表とグループ討論
１５．各自の研究における統計分析について

テキスト・教材	授業開始時にテキスト・教材を指示する。このほかに適宜資料を配付する。		
参考書	配付資料に推薦図書を掲載する。		
評価の基準と方法	授業時提出課題(小ﾚﾎﾟｰﾄを含む)、授業内での発表（2 回以上）、学期末レポート、により評価を行う。 配点は、授業時提出課題が 30 点、授業内での発表（2 回）が 30 点、学期末レポートが 40 点とする(合計 100 点）。		
授業開始前学習	心理学研究法の概論書を読み、各種の方法を復習しておくと授業が理解しやすい。 （とくに、観察法と質問紙法について基本的事項を復習して授業に望むこと。）		
授業内課題のフィードバックの方法	課題発表回に発表者へ個別フィードバックを行う。また、授業 7 回目、13 回目に提出する小レポートについては、2 週後（授業 9、15 回目）に全体の講評を行い、個別の質問に回答する。		
準備学習（予習）	配付する資料を一読し、専門用語について予め調べて授業に参加すること(各回）。 授業で学ぶ方法によって行われた具体的研究例を探し、理解する（授業内発表時）。		
準備学習（復習）	各自の研究課題に応用し、採用できる方法を考察すること(各回)。 後半のデータ分析と統計処理については、PC での使用例を実演するので確実に手続きを習得すること。		
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○	○
関連科目	臨床心理学研究法特講				
その他	授業内容・進め方は、受講者人数により変更することがある。 授業の 3 分の 1 を超えて欠席した場合は、単位を取得できない。 単位修得には、発表（2 回以上）と学期末のレポート提出（1 回）を行うことが必要である。				

科目名称	臨床心理学研究法特講	科目分類	402-321-11
担当教員	稲吉　玲美	授業区分	講義
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	臨床心理の現場では，クライエントと対話しながら問題状況を明らかにし，問題解決に向けた介入を行うことが求められる。臨床心理学研究の力を身につけることは，臨床心理実践において現実をデータに基づいてとらえ，介入の効果を評価し，臨床の質を高めていくために必要である。 本講義では，臨床心理学研究法についての基礎知識を身につけ，データ収集・分析方法の実際を知ることを目的とする。特に，臨床心理学が対象とする個人や集団の気持ちや感じ方といった数値化しにくいデータの扱い方について，ワークを通じて体験的に理解する。		
到達目標	・自らの関心事を臨床心理学研究の枠組みでとらえ、研究テーマおよび研究目的を設定できる。 ・自身の研究目的に応じて、適切なデータ収集方法、分析方法を選択できる。 ・質的データを、特定の方法論に基づいて分析することができる。		

各回の授業内容と課題学習

１．オリエンテーション、修論テーマ発表
２．臨床心理学と研究活動、臨床心理学研究とは（講義）
３．臨床心理学研究の進め方
４．臨床心理学の研究法（データ収集法）
５．臨床心理学の研究法（データ分析法）
６．臨床心理学研究の実際
７．ワーク：インタビュー調査①
８．ワーク：インタビュー調査②
９．ワーク：質的分析①
１０．ワーク：質的分析②
１１．ワーク：質的分析③
１２．ワーク：質的分析④
１３．　ワーク成果発表
１４．修論研究計画発表
１５．臨床心理学研究の倫理、最終レポート課題について

テキスト・教材	下山晴彦・能智正博　編著『心理学の実践的研究法を学ぶ』（新曜社） 授業は毎回スライドを印刷したものを配布するが、より理解を深めるためにはテキストを手元に準備することが望ましい。		
参考書	能智正博　著『臨床心理学をまなぶ６　質的研究法　』（東京大学出版会） サトウタツヤ・春日秀朗・神崎真実　編著『質的研究法マッピング：特徴をつかみ，活用するために』（新曜社） その他、授業内にて適宜紹介する。		
評価の基準と方法	授業への参加態度：60% （授業貢献度：10%，授業内課題：30%，ワークへの取り組み：20%） 最終レポート：40%		
授業開始前学習	・講義開始時点で最新の修論の研究計画書を２部準備し、初回授業に持参すること（1 部は初日に提出）。 ・卒論研究の内容＋修論研究で考えているテーマや関心について、説明できるように準備しておくこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	・授業内課題については、翌日の講義内にてコメント、ディスカッションを行う。 ・最終レポートについては、全体の講評を行い、コメントを付して返却する。		
準備学習（予習）	授業の予習は不要。復習（授業内課題，ワークに係る作業）にしっかり取り組むこと。		
準備学習（復習）	集中講義中は、毎日授業内課題を提示する。翌日までに取り組んでくること。		
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○	○
関連科目					
その他					

科目名称	人格心理学特講	科目分類	402-321-11
担当教員	関　真粧美	授業区分	講義
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	人格理解のための理論について学ぶ。授業では最初に、類型論、特性論、精神分析的人格理論、行動主義的学習理論、人間性理論といった、主要な人格理論について講義する。その後は参考書を用いて、精神分析的な人格理論の理解を深めていく。精神力動的理解の基礎となる知識を身につけることで、心理療法、および心理査定における人格理解の一助となることが講義の目的である。なお、授業は初回と最終回は講義。それ以外は、参考書をもとにした発表形式とする。		
到達目標	1.　主要な人格理論について基礎的な概念と用語を覚え、意味内容を把握し、それらの概念や用語を使用できる。 2.　それらの理論を提唱した人物名や歴史的背景についての知識が身につく。		

各回の授業内容と課題学習

1. パーソナリティ理論と知能についての概観
2. 精神分析の歴史(参考書①1 頁～7 頁)
3. 構造論(参考書①8 頁～28 頁)
4. 力動論的観点：自我の諸機能(参考書①29 頁～47 頁)
5. 力動論的視点：自我の諸機制 1(参考書①48 頁～75 頁)
6. 力動論的視点：自我の諸機制 2(参考書①75 頁～97 頁)
7. 心の病理と退行（局所論的退行の理論）（参考書①98 頁～114 頁)
8. フロイトと自我心理学の発達論(参考書①115 頁～144 頁)

9.マーラーの分離--固体化の発達(参考書①152 頁～182 頁)

10. 境界的人格構造(参考書①188 頁～211 頁)

1 1 .対象関係論　クライン 1 (参考書②62 頁～90 頁)

12.対象関係論　クライン 2 (参考書②91 頁～111 頁)

13.対象関係論　ウィニコット 1 (参考書②144 頁～167 頁)

14.対象関係論　ウィニコット 2 (参考書②168 頁～194 頁)

15. まとめ

テキスト・教材	なし				
参考書	①馬場禮子「精神分析的人格理論の基礎―心理療法を始める前に」岩崎学術出版社 ②藤山直樹「集中講義・精神分析(下)フロイト以後」(14、15、17、18 章）岩崎学術出版社				
評価の基準と方法	議論等への参加 40%、発表 30%、提出レポート 30%により評価する。				
授業開始前学習	発表担当者以外も全員、授業の前に参考書(いずれも本大学図書館所蔵)を読んでおき、疑問点が挙げられたり、議論に参加できるよう準備しておくことが望ましい。				
授業内課題のフィードバックの方法	授業時間内に発表担当者が発表したものについて、口頭でフィードバックを行う。また、発表担当者以外も含む全員で発表内容に関する議論を行い、細かい疑問点について共有した上で教員がコメントしていく。				
準備学習（予習）	発表担当者は担当箇所の重要事項や疑問点、ディスカッションしたいポイントを列挙し、文献等を調べ、レジュメを作成すること。				
準備学習（復習）	授業後は、毎回ディスカッションの内容を振り返り、疑問点を明らかにし、知識の定着をはかるようにする。				
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。		
学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎	△	

関連科目	
その他	

科目名称	認知心理学特講	科目分類	402-321-11
担当教員	奥野・丸山	授業区分	講義
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	人間の認知のメカニズムを包括的に理解するためには、脳や中枢神経系の成熟・変化について知るだけではなく、身体と認知の関係および人間が遭遇する多様な環境との相互的（ないし相補的）関係のダイナミクスについても知る必要がある。本講義では、特に近年の認知科学における「身体性認知 embodied cognition」およびその関連領域に焦点を当てる。その含意と射程は、心理臨床の実践にも関わるものであると思われる。本講義を通して、“こころ”というものを捉え直すひとつの契機を見出してもらいたい。		
到達目標	・認知心理学の最近の理論的関心（身体性認知科学，生態心理学など）を理解すること。 ・修士論文の作成の際に参考となる知見を見出すこと。 ・英語論文を精読し、その要点を把握できるようになること。		

各回の授業内容と課題学習

1. イントロダクション：本講義の内容の概説、輪読をする文献について検討する
2. 脳、心、身体（1）
3. 脳、心、身体（2）
4. 心理学をエコロジカルに捉え直す（1）
5. 心理学をエコロジカルに捉え直す（2）
6. 心理学をエコロジカルに捉え直す（3）
7. 心理学をエコロジカルに捉え直す（4）
8. 心理学をエコロジカルに捉え直す（5）
9. 心理学をエコロジカルに捉え直す（6）
10. 変化を導く環境（1）
11. 変化を導く環境（2）
12. 変化を導く環境（3）
13. 変化を導く環境（4）
14. 変化を導く環境（5）
15 .まとめ

テキスト・教材	複数の文献を輪読する予定なのでテキストは限定しない。英語論文を中心にいくつかの文献や論文を検討し、特に重要と思われる箇所を取り上げる予定。
参考書	・河野哲也『〈心〉はからだの外にある』NHK ブックス ・マロック，S. & トレヴァーセン，C.（編著），根ヶ山光一，今川恭子，蒲谷槙介，志村洋子，羽石英里，丸山慎（監訳）『絆の音楽性：つながりの基盤を求めて』音楽之友社 ・矢野智司・桑原知子（編）『臨床の知：臨床心理学と教育人間学からの問い』創元社　ほか
評価の基準と方法	期末レポートの提出（40%：授業内容に即して課題を決定する）、、授業への貢献（40%：文献内容の報告、資料作成、ディスカッションへの参加）、出席点（20%）を総合して最終的な評価とする。
授業開始前学習	毎回の講義前に文献の指定箇所を精読し、ディスカッションでの話題提供を心がけて準備する。
授業内課題のフィードバックの方法	作成資料および原稿等については授業内でフィードバックの機会を設ける。
準備学習（予習）	講読する文献の各授業で取り上げる部分を事前に読んでおくこと。内容の完全な理解を求めるわけではなく、講読した内容に関する不明な点や疑問点、あるいは自分の意見を授業中に発言できるように準備しておくこと。
準備学習（復習）	講読した内容について各人が今日的な視点からその意義を捉え、自分の知識として定着させるようにするため、各回の授業で講読した部分および発表担当者が作成した資料を読み返しておくことを求めたい。
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。 心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。 心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力

科目の該当		○	◎	△	
関連科目					
その他					

科目名称	社会心理学特講	科目分類	402-321-11
担当教員	永房　典之	授業区分	講義
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	本授業では、『公認心理師』・『臨床心理士』を目指す上で必要な知識を獲得する、臨床場面で活用できる技能への関心をもつことを目的とする。公認心理師では、「社会及び集団に関する心理学」のなかの『対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程』、『人の態度及び行動』、「産業・組織に関する心理学」のなかの『組織における人の行動』といった社会心理学分野に関するテーマを取り上げる。臨床場面では対人関係の問題、子どもの社会性の問題、心理療法では『認知行動療法』、『SST（ソーシャルスキルトレーニング）』につ		
到達目標	1．幅広い分野の心理学の知識獲得が必要である国家資格・公認心理師として「社会・集団・家族心理学」領域で臨床にかかわる「社会・集団」、「産業・組織」の専門的知識の理解ができる。 2．公認心理師・臨床心理士として、「臨床的問題」の支援につながる「対人関係」、子どもの「社会性」についての意識が高まる。		

各回の授業内容と課題学習

第 1 回：　公認心理師と「社会心理学」
第 2 回：　個人内過程、 社会的自己、自己過程
第 3 回：　社会的認知、態度、帰属
第 4 回：　対人認知、印象形成、社会的推論
第 5 回：　対人行動、対人的相互作用、コミュニケーション
第 6 回：　社会的感情、親密な関係
第 7 回：　社会的影響、社会的動機、社会的ジレンマ
第 8 回：　集団過程、集団内過程、集団間過程
第 9 回：　集合現象、社会的アイデンティティ、社会的ネットワーク
第 10 回：　集団、組織、リーダーシップ、安全文化、動機づけ理論、組織風土と文化
第 11 回：　社会的スキル、対人ストレス、ソーシャルサポート、ソーシャルネットワーク
第 12 回：　社会的行動と臨床的問題
第 13 回：　ソーシャルスキルトレーニング＜SST＞
第 14 回：　認知行動療法
第 15 回：　社会心理学特講の総括

テキスト・教材	テキストは使用しない。適宜、資料を配付する。
参考書	・竹村和久（編）『社会・集団・家族心理学』（遠見書房）2018 年発行　2,600 円＋税 ・中里至正・松井洋・中村真（編著）『新・社会心理学の基礎と展開』（八千代出版）2014 年発行　2,400 円＋税 ・永房典之（編著）『なぜ人は他者が気になるのか？－人間関係の心理』（金子書房）2008 年発行　2,300 円＋税 ・永房典之（編著）『新・子ども家庭支援の心理学－発達・家族の理解と子育て支援－』（教育情報出版）2023 年発行　2,000 円＋税 ・日本心理研修センター（監修）　公認心理師 『現任者講習会テキスト（改訂版）』（金剛出版）　2019 年発行　3,800 円＋税
評価の基準と方法	平常点（議論への参加、リアクションペーパー）50 点、発表 50 点にて総合的に評価を行う。
授業開始前学習	心理学の入門テキストにおける「社会心理学」分野、社会心理学の入門テキストを読んでおくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	リアクションペーパーについては次回の授業回または遠隔教育ツールで解説を行う。
準備学習（予習）	公認心理師における社会心理学分野の各回テーマについての予習、自身の修士論文に関する文献購読。
準備学習（復習）	授業で取り上げられた専門的事項について考察し、発展的理解を行う。

ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎	△	○

関連科目	
その他	社会心理学を活かし、心理臨床に役立つ「対人関係」の問題への支援、家庭・学校で生活する子どもの「社会性」への支援についても取り上げたい。また授業で取り上げるトピックについては、受講生と相談しながら進めたい。 国家資格・公認心理師の受験科目である「社会心理学」分野の試験対策、修士論文における質問紙調査による研究計画、統計処理、学校・施設等の臨床実習への相談にも応じる。

家族心理学特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ）

科目名称	家族心理学特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ）	科目分類	402-321-11
担当教員	田中　教仁	授業区分	講義
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 10:40～12:10 後期　火曜日 11:40～12:10　火曜日 14:40～16:40	研究室	10-719
授業のテーマ・内容	家族心理学の知見は，医療，福祉，教育，司法など様々な実践領域で活用されている。これは、家族全体を援助の対象とするだけでなく，個人を援助していく上でも，家族という要素を切り離して考えることが難しいことを示していると言えよう。本講義では，個人や家族が直面する諸問題の理解と援助方法について，家族システム論を中心に家族の発達的側面から概観するとともに、離婚や面会交流、DV，児童虐待、家事事件といった臨床的問題について，適宜臨床素材を用いて検討を深めていく。院生による発表、ディスカッションを行うため、授業への積極的		
到達目標	家族アセスメント（家族システム論の視点を中心に）と援助の基本を理解し，説明することができる。 家族に生じる臨床的問題の基本事項を理解し、具体的な援助の方法を検討することができる。 関連する法制度の理解を深める。		

各回の授業内容と課題学習

1.家族の定義と現代家族の置かれた状況
2.家族システム論と家族を理解するための鍵概念①（ジェノグラム、家族の構造）
3.家族を理解するための鍵概念②（家族の機能、コミュニケーション）
4.家族を理解するための鍵概念③（発達的側面）
5.家族の発達(独身の成人期から結婚まで)
6.家族の発達(乳幼児を育てる段階)
7.家族の発達(児童期・思春期の子どもがいる家族)
8.家族の発達(中年期の夫婦、老年期の夫婦)
9.家族への臨床的アプローチ
10.家族面接の実際(DVD 視聴と振り返り)
11.家族の臨床的諸問題と支援(夫婦関係の危機、離婚をめぐる問題)
12.家族の臨床的諸問題と支援（面会交流等、父母の紛争下の子どもをめぐる問題）
13.家族の臨床的諸問題と支援(児童虐待等、子育てをめぐる問題)
14.家族の臨床的諸問題と支援(DV をはじめとする家庭内の暴力)
15.家族の臨床的諸問題と支援（家事事件）

テキスト・教材	中釜洋子・野末武義ら編『家族心理学－家族システムの発達と臨床的援助（第２版）』（有斐閣） 授業内で適宜レジュメを配布、使用する。
参考書	若島孔文・野口修司編著『テキスト家族心理学』（金剛出版） 小田切紀子・野口康彦・青木聡編著『家族の心理－変わる家族の新しいかたち』（金剛出版） 他、講義内で提示する。
評価の基準と方法	授業態度（発表、ディスカッション等への参加）により５０％、レポートにより５０％の配分で総合的に評価する。
授業開始前学習	家族の問題をめぐる法制度に関心を持ち、調べておく。
授業内課題のフィードバックの方法	院生の発表及びディスカッションの内容について，適宜コメントしていく。
準備学習（予習）	発表の担当外の回においても、テキストの該当箇所や配布資料等を講読するとともに，余力があれば関連文献にも当たる。
準備学習（復習）	資料の見返しと、関連文献に当たる。

ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。		心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。	
学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎	△	
関連科目					
その他	公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」はⅠⅡの両方を履修する必要がある。				

科目名称	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	科目分類	402-321-11
担当教員	田中　教仁	授業区分	講義
オフィスアワー	前期　火曜日 10:40～12:10　木曜日 10:40～12:10 後期　火曜日 11:40～12:10　火曜日 14:40～16:40	研究室	10-719
授業のテーマ・内容	少年審判と刑事事件における手続きや理念の違いなど司法制度の基礎的な理解を図るとともに，この領域の専門機関の概要とそこで活躍する専門職の実践を知る。また，非行・犯罪に至る要因や更生に関する理論と、援助技法の基礎を学ぶ。さらには、犯罪被害者やその家族の心理及び支援の基本について学ぶ。 授業の後半では，様々な臨床場面で遭遇するかもしれない窃盗と暴力の問題に焦点を当て、基礎的な理論を学ぶとともに、具体的な事例を通して、臨床心理学的観点から支援方法を検討する。 授業は、各回のテーマについて担当の院生がレジ		
到達目標	司法制度の概要や専門機関の実践について説明できる。 犯罪・非行に関する基礎的理論や援助技法を理解すると共に，説明することができる。 犯罪被害者やその家族の心理及び支援の基本を理解する。		

各回の授業内容と課題学習

1. イントロダクション(①司法を巡る心理職の課題、②犯罪・非行の実態)
2. 犯罪・非行の基礎理論①（生物学的要因・心理学的要因）
3. 犯罪・非行の基礎理論②（社会学的要因）
4. 犯罪・非行の基礎理論③（ライフコース理論）
5. 犯罪・非行の基礎理論④（リスクアセスメント・立ち直り支援の理論）
6. 刑事司法制度（①犯罪の基礎知識、②刑事司法制度・裁判員裁判、③情状鑑定）
7. 少年司法制度（①少年審判手続の流れ、②家庭裁判所の審判、③少年法の改正）
8. 司法犯罪領域における面接
9. 家庭裁判所調査官の調査と少年鑑別所
10. 少年院、児童自立支援施設
11. 保護観察所（更生保護制度）
12. 刑事施設と医療観察制度
13. 犯罪被害者等の心理と支援
14. 問題別事例検討(窃盗)
15. 問題別事例検討(暴力)

テキスト・教材	特に指定しない。 授業内でレジュメ等を配布し、使用する。		
参考書	門本泉編著『司法・犯罪心理学－社会と個人の安全と共生をめざす』（ミネルヴァ書房） 岡本吉生編著『公認心理師の基礎と実践「19 司法・犯罪心理学」』（遠見書房） 須藤明『少年犯罪はどのように裁かれるのか』（合同出版）		
評価の基準と方法	授業態度（レジュメ作成及び発表、ディスカッションへの取組）により５０%、レポートにより５０%の配分で総合的に評価する。		
授業開始前学習	犯罪心理学の入門書に目を通していることが望ましい。		
授業内課題のフィードバックの方法	授業での発表及びディスカッションに対して、適宜コメントする。		
準備学習（予習）	担当者は調べ学習をして、発表レジュメを作成する。レジュメ作成の担当以外の者も、参考書や資料の該当箇所やテーマに則した文献を読んでおく。また，犯罪や非行に関するニュースを把握しておく。		
準備学習（復習）	配布資料の見返し及び疑問点を整理する。		
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎	△	
関連科目					
その他	公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、本科目を履修する必要がある。				

科目名称	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	科目分類	402-321-11
担当教員	割澤　靖子	授業区分	講義
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	産業・労働分野では、予測不能かつ多様な変化への対応を迫られ続ける個人と組織が心理援助の対象となる。支援に際しても、特定の支援モデルに即して対応することには限界があり、いかなる変化にも臨機応変に対応できるよう、個人と組織に即した支援を柔軟に展開することが求められる。本講義では、産業・労働分野における基礎的な理論や法律の知識を習得するとともに、企業における心理援助の実際を知り、本領域で求められる柔軟な心理援助の在り方について考える力を身に着けることを目標とする。		
到達目標	産業・労働分野における心理援助に関して、基本的な用語と関連法案を理解する。 個人を支援することと組織を支援することの共通点・相違点を理解する。 柔軟な心理援助の在り方について、考えることができるようになる。		

各回の授業内容と課題学習

1. イントロダクション（講義の目的・授業の進め方・注意点など）
2. 産業・労働分野における心理援助
3. 産業・労働分野における法律・制度・労務管理
4. 働く人を理解する（キャリア）
5. 働く人を理解する（組織における人の行動）
6. 働く人を理解する（多様な働き方と障害者雇用）
7. 働く人を理解する（働く人のストレス）
8. 働く人を理解する（メンタルヘルスの不調）
9. 働く人を支援する（三次予防）
10. 働く人を支援する（二次予防）
11. 働く人を支援する（一次予防とポジティブメンタルヘルス）
12. 組織を支援する　（支援体制の構築と協働）
13. 組織を支援する　（組織のアセスメント）
14. 組織を支援する　（危機介入と施策立案）
15. 産業・労働分野における心理職の貢献可能性

テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布
参考書	
評価の基準と方法	小テスト 20 点・提出課題 40 点・平常点（授業態度）40 点
授業開始前学習	これまでの実習経験等を振り返り、働く人の心理援助に関する自身の理解を整理しておく。
授業内課題のフィードバックの方法	小テストは講義内にて採点・解説する。提出課題はコメントを添えて返却する。
準備学習（予習）	
準備学習（復習）	
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。 心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。 心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎	△	

関連科目	
その他	公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、本科目を履修する必要がある。

精神医学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開）

科目名称	精神医学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	科目分類	402-321-11
担当教員	竹島　正	授業区分	講義
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	精神保健とは、人間とその行動の理解を踏まえ、「共に生きる社会」の実現という理念のもと、社会におこるさまざまな問題の実態と関連する要因を明らかにしつつ、社会との協働によってその解決を図り、社会をよりよいものにしていく活動をいう。精神保健の歴史、考え方、地域実践を学び、受講者自身の精神保健についての考えを深め、自らの生き方や実践の素材とすることを目的とする。講義は、教科書の担当章の発表とディスカッション、講義、時間内のレポート提出からなる。		
到達目標	１．精神保健の問題を経験するということ、それを社会との関連においてとらえる視点を得る。 ２．精神保健の臨床実践、重要な疾患領域、重要な専門領域を理解する。 ３．精神保健の歴史と実践を理解する。 ４．自殺予防・自死遺族支援の取組と考え方を理解する。 ５．精神保健の現在そして将来の課題を理解する。		

各回の授業内容と課題学習

1. 精神保健の問題を経験するということ、臨床実践へのアプローチ 1
2. 精神保健の問題を経験するということ、臨床実践へのアプローチ 2
3. 精神保健の問題を経験するということ、臨床実践へのアプローチ 3
4. 精神保健の重要な疾患領域 1
5. 精神保健の重要な疾患領域 2
6. 精神保健の重要な疾患領域 3
7. 精神保健の重要な疾患領域 4
8. 精神保健の重要な疾患領域 5
9. 精神保健の重要な疾患領域 6
10. 精神保健の専門的領域 1
11. 精神保健の専門的領域 2
12. 精神保健の専門的領域 3
13. 精神保健の現在そして将来の課題 1
14. 精神保健の現在そして将来の課題 2
15. 精神保健の現在そして将来の課題 3

テキスト・教材	「共生社会のための精神医学」 シドニー・ブロックほか編集　竹島正監訳　中央法規 「やさしさのなかの、たくましい生き方―芸術活動を続けている精神疾患当事者から学ぶこと―」（非売品・担当教員から提供）		
参考書	WHO「自殺を予防する―世界の優先課題」（ウエブからダウンロード可能） https://www.who.int/publications/i/item/9789241564779 その他、必要に応じて情報提供。		
評価の基準と方法	与えられた課題の発表および内容 50%、毎回の授業での学習態度・参加意欲 50%		
授業開始前学習	「共生社会のための精神医学」 シドニー・ブロックほか編集　竹島正監訳　中央法規のうち、第 1 章「精神疾患とその治療の歴史」、第 2 章「精神医学へのアプローチ」に目をとおしておいてください。		
授業内課題のフィードバックの方法	各授業において講義と説明を行います。		
準備学習（予習）	毎回、次回のテーマに関連する章や資料を読んでおく。 各回のテーマに関してレポートを作成。		
準備学習（復習）	各回、教科書とする「共生社会のための精神医学」の担当章や資料について報告してもらうので、その事前学習を行う。		
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎	△	
関連科目	臨床心理実習ⅠＡ～Ｄ(心理実践実習Ⅰ～Ⅳ)				
その他	公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、本科目を履修する必要がある。 必ず修士 1 年前期に履修すること（臨床心理実習ⅠＡ～Ｄ(心理実践実習Ⅰ～Ⅳ)を履修するには、本科目の履修を終えていなければならない）。				

科目名称	☆異常心理学特講	科目分類	402-321-11
担当教員	関　真粧美	授業区分	講義
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	臨床心理学の実践および研究における心理的問題や精神病理について理解する。特に、クライエント本人や家族など当事者の主観的な苦痛の体験について資料をもとに想像し、理解する。当事者の心理、という観点を重視して進めていく。そのために主に力動的な視点を援用して講義する。		
到達目標	1．精神的な苦痛を抱えている本人とその周囲にいる人たちについて、症状名や診断名という切り口からだけでなく、当事者の主観的苦痛を想像し理解しようとするという姿勢が身につく。 2．自分自身の主観を観察し、言語で表現できるようになる。		

各回の授業内容と課題学習

1）異常心理学を学ぶ意義および正常と異常という概念について
2）精神障害(統合失調症)
3）精神障害(大うつ病～うつ状態)
4）精神障害(双極症)
5）神経発達症(自閉スペクトラム症と ADHD を中心に)
6）心的外傷後ストレス症・PTSD
7）虐待と反応性アタッチメント障害
8）薬物・物質・ギャンブルへの依存、嗜癖
9）摂食症
10）解離症状・解離症
11）パーソナリティ症（境界性 PD と自己愛性 PD を中心に）
12）パニック症状・パニック症
13）強迫症
14）対人恐怖・対人不安と森田療法
15）まとめ

テキスト・教材	なし
参考書	授業中に随時紹介
評価の基準と方法	議論等への参加 40%、発表 30%、提出レポート 30%により評価する。
授業開始前学習	発表担当回以外も授業開始前に文献等にあたり、疑問点を挙げたり議論に参加できるよう準備しておくことが望ましい。
授業内課題のフィードバックの方法	授業時間内に発表担当者がおこなう発表についてのフィードバックを口頭で行うとともに、発表担当者以外も含めた全員での議論を進めていく中で、挙げられた疑問点を共有した上で、教員がコメントしていく。
準備学習（予習）	その回のテーマに関する複数の文献を読み、当事者が体験することについて自分なりのイメージを作って授業に臨むこと。
準備学習（復習）	その回に配布されたレジュメを熟読し、疑問点や深めたい点を見つけておくこと。
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。 心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。 心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎	△	

関連科目	
その他	当事者の主観的苦痛を想像し理解するためには、自分自身の主観を観察し言語で表現できるようになることが重要である。本授業の際に、活発に質問や感想、意見が述べられるようになることが望まれる。

障害者心理学特講（福祉分野に関する理論と支援の展開）

科目名称	障害者心理学特講（福祉分野に関する理論と支援の展開）	科目分類	402-321-11
担当教員	小林　玄	授業区分	講義
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	近年の障害のとらえ方や法律、制度を概観し、それぞれの障害特性を理解した上で、個々のニーズに即した支援の在り方を実例も交えながら考察していく。扱う障害は、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、知的障害等の他、近年、医療や心理教育相談の場で扱うことが多くなった発達障害について、主訴から支援方針の立案までを詳説する。学校、相談室、医療機関で用いることの多い知能検査や認知発達検査についても言及し、心理職として現場に出たときの実践力にもつなげていく。		
到達目標	1．ICIDH から ICF への世界的な意識の変化や共生社会、インクルーシブ教育の理念について理解する。 2．授業テーマ・内容で挙げた各障害の特性を理解する。 3．心理・教育相談の場で、主訴から支援計画までのプロセスを理解し、アセスメントの観点を身につける。 4．主な知能検査や認知能力検査の特徴と結果の解釈の基礎的なスキルを身につける。		

各回の授業内容と課題学習

1．　オリエンテーション　障害とは
2．　障害に関わる法律、制度
3．　障害特性の理解と支援（1）　肢体不自由　視覚障害　聴覚障害
4．　障害特性の理解と支援（2）　知的障害
5．　障害特性の理解と支援（3）　発達障害（LD）
6．　障害特性の理解と支援（4）　発達障害（ADHD）
7．　障害特性の理解と支援（5）　発達障害（ASD）
8．　障害特性の理解と支援（6）　併存することの多い困難（感覚過敏　発達性協調運動障害など）
9．　障害特性の理解と支援（7）　併存することの多い困難（トゥレット症候群など）
10．障害受容と家族支援
11．バリアフリーとユニバーサルデザイン
12．主訴から支援計画へ（1）心理教育的アセスメント
13．主訴から支援計画へ（2）検査結果の解釈
14．主訴から支援計画へ（3）支援方針の立案
15．障害理解についての総合的考察

テキスト・教材	特になし。 必要に応じて資料を配布する。
参考書	「特別支援教育のための障害理解　未来に開かれた教育へ」東京学芸大学特別支援科学講座：編　金子書房 その他、授業内でも紹介する。
評価の基準と方法	授業中のディスカッションへの参加 20%　プレゼンテーション 30%　レポート 50%
授業開始前学習	基礎的な心理学の知識（発達心理学、学習心理学、認知心理学等）を復習しておくとよい。また、障害に関連するニュースや書籍から積極的に情報収集をして問題意識を持っておく。 事前に、以下の障害種のうち一つを選択し、障害の特性や心理職としてどのようにケアやサポートを行うかについてプレゼンテーションの準備をしておく。 プレゼンテーションは、1 人 20 分程度でパワーポイント にまとめること。 ＊障害種：肢体不自由、聴覚障害、視覚障害、知的障害、発達障害（LD）、発達障害（ADHD）、発達障害（ASD）
授業内課題のフィードバックの方法	授業内でプレゼンテーションをおこなう際、その場でディスカッションし、全員で問題を共有した上でサジェスチョンやアドバイスを与える。
準備学習（予習）	各回のテーマについて概要を調べておく。
準備学習（復習）	各回の学びを自分の観点で捉え直し理解を深める。関連する文献や資料に目を通す。

ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。		心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。	
学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎	△	
関連科目					
その他	公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、本科目を履修する必要がある。				

科目名称	☆心理療法特講 A	科目分類	402-321-11
担当教員	織田　邦彦	授業区分	講義
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	プレイセラピーについて、講義、文献講読、演習を通して、様々な角度から理解を深める。具体的には、実際のプレイセラピーの事例について興味を持った事例を各自発表する。さらに、プレイセラピーを臨床現場で実施することができるように、プレイルームに慣れるところから始め、最終的には、2 人 1 組でプレイセラピーの演習を行い、クライエント役とセラピスト役を体験する。また、箱庭療法についても、実際に箱庭を制作し、箱庭療法への理解を深める。		
到達目標	1. プレイセラピーの流れ（初回、展開、終結）を理解することができる。 2. プレイセラピーにおける表現の多様性について知ることができる。 3. プレイセラピーを臨床現場で実施することができる。		

各回の授業内容と課題学習

1.講義　授業の進め方についての説明と自己紹介、「心理臨床を学ぶ」の第 10 巻「遊戯療法」の動画視聴とディスカッション
2.講義　「遊戯療法」の動画視聴の続き、アクスラインのディブスの事例を読む①
3.講義　アクスラインのディブスの事例を読む②
4.演習と講義　遊びの演習、アクスラインのディブスの事例を読む③
5.講義　『子どもの心理臨床入門』に掲載されているプレイセラピーの事例の紹介とディスカッション
6.発表　事例検討①、②
　　興味を持った事例について、その概要と疑問点・検討点を発表する。
7.発表　事例検討③、④
8.発表　事例検討⑤、⑥
9.演習　箱庭療法の体験
10.講義　初回面接について、箱庭療法の展開
11.演習　初回面接のロールプレイ①・②（各 30 分間）
12.演習　初回面接のロールプレイ③・④
13.演習　初回面接のロールプレイ⑤・⑥
14.講義　親面接について
15.講義　親面接について（つづき）、セラピー過程における課題について、終結について、授業アンケート、まとめ

テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布。Google のクラスルームにも掲載する予定。
参考書	参考になると思われる本について講師が適宜紹介する。
評価の基準と方法	平常点（授業への意欲・事例検討への取り組み）50%、最終レポート 50%により評価する。
授業開始前学習	フロイトやエリクソンなどの発達理論について関心を持っておくとよい。
授業内課題のフィードバックの方法	事例検討については、各自レジュメを作成して、発表する。各自が提示した検討したいことについて、講師がフィードバックを行い、また他の受講生からもフィードバックがもらえるようにする。
準備学習（予習）	事例検討の際、自分が選んだ事例について、概要と疑問点・検討したい点をまとめてレジュメを作成する。
準備学習（復習）	授業後は、自分が興味を持った内容や疑問点について、専門書にあたってみるとよい。
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。 心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。 心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○	○

関連科目	心理療法特講 B
その他	授業では、皆で自分の意見を言い合い、理解を深めていく。

科目名称	☆心理療法特講 B	科目分類	402-321-11
担当教員	依田　尚也	授業区分	講義
オフィスアワー	前期　火曜日 14:40～16:10　火曜日 16:20～17:50 後期　火曜日 14:40～16:10　火曜日 16:20～17:50	研究室	10-715
授業のテーマ・内容	芸術療法、特に臨床現場において用いられることの多い『バウムテスト』と『風景構成法』について重点的に学び、心理療法における非言語的なアプローチを習得する。また、その適応と注意点について理解する。受講生同士で各技法を試行し合うことで、芸術療法におけるクライエントーセラピスト関係の重要性について体験的に学ぶ。		
到達目標	１．芸術療法の適応と注意点について理解する ２．芸術療法の基本的な技法を習得する ３．事例論文の輪読を通して芸術療法の実際を知る ４．「自分だったら芸術療法をいかに実践するか」をイメージできる		

各回の授業内容と課題学習

第１回　イントロダクション
第２回　事例検討
第３回　文献講読①：芸術療法の概要
第４回　文献講読②：芸術療法の注意点
第５回　発表①：バウムテストの概要
第６回　発表②：風景構成法の概要
第７回　バウムテスト体験①
第８回　バウムテスト体験②
第９回　バウムテスト体験③
第１０回　バウムテスト体験④
第１１回　風景構成法体験①
第１２回　風景構成法体験②
第１３回　風景構成法体験③
第１４回　風景構成法体験④
第１５回　芸術療法における理解の言語化

テキスト・教材	適宜、講義内にて資料を配布する。
参考書	飯森眞喜雄（編）『芸術療法［新装版］』（日本評論社）
評価の基準と方法	所定の出席数を満たした者について、授業内の発表（60%）と、授業への積極的な参加姿勢（40%）によって評価する。
授業開始前学習	特に必要なし。
授業内課題のフィードバックの方法	授業内で適宜コメントする。
準備学習（予習）	発表者は資料を作成すること。
準備学習（復習）	授業の資料を見返すこと。
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。 心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。 心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○	○

関連科目	
その他	受講者数によっては発表の担当回が多くなる可能性があることに留意すること。 なお、進度の都合により内容・講義順序を一部変更する可能性がある。

☆心理療法特講Ｃ（心理支援に関する理論と実践Ⅱ）

科目名称	☆心理療法特講Ｃ（心理支援に関する理論と実践Ⅱ）	科目分類	402-321-11
担当教員	齊藤　和貴	授業区分	講義
オフィスアワー	前期　月曜日 13:00～16:00 後期　月曜日 13:00～16:00	研究室	10-708
授業のテーマ・内容	近年、エビデンスに基づく治療や介入、予防などへの社会的ニーズが高まっている。こうしたニーズに応える臨床心理学的な支援手法として、認知行動療法が注目を集めている。本講義では、認知行動療法の基本の理解と臨床場面における実践を目指して、座学とロールプレイなどの演習を通して学びを深める。		
到達目標	到達目標は、以下のとおりである。 ・認知行動療法の考え方を説明できる ・不適応の成り立ちや維持について、認知行動療法の視点から説明できる ・認知行動療法の視点に基づいた支援を考えることができる		

各回の授業内容と課題学習

1．認知行動療法の基本と考え方
2．アセスメントとケースフォーミュレーション
3．認知行動療法を支える理論：学習理論
4．認知行動療法を支える理論：行動分析
5．認知行動療法を支える理論：認知理論
6．第三世代の認知行動療法
7．不安への認知行動療法（１）
8．不安への認知行動療法（２）
9　抑うつへの認知行動療法
10．依存への認知行動療法
11．睡眠への認知行動療法
12．不登校支援としての認知行動療法
13．パーソナリティ障害への認知行動療法
14．統合失調症への認知行動療法
15．まとめ

テキスト・教材	スライド・授業資料を用いる。
参考書	
評価の基準と方法	講義における平常点（30 点）と期末レポート（70 点）にて評価を行う。
授業開始前学習	
授業内課題のフィードバックの方法	講義を通して感じた疑問や感想については、必要に応じて次回の授業で回答やシェアを行う。
準備学習（予習）	授業で扱う内容について、論文や本などで事前に調べておくこと。
準備学習（復習）	事例論文などを読むことで、実践での活用について振り返る。
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。 心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。 心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○	○

関連科目	
その他	公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、本講義の単位が必要である。

☆心理療法特講 D（心理支援に関する理論と実践Ⅲ）

科目名称	☆心理療法特講 D（心理支援に関する理論と実践Ⅲ）	科目分類	402-321-11
担当教員	藤城　有美子	授業区分	講義
オフィスアワー	前期　金曜日 14:30～17:30 後期　金曜日 14:30～17:30	研究室	10-710
授業のテーマ・内容	この講義は演習形式で行い、精神分析的心理療法・力動論に基づく心理療法の理論と方法を身につけ、心理に関する相談、助言、指導等に応用できるようになること目標とする。精神分析的な治療とは、第 1 にはフロイトが創始した精神分析の実践を指すが、わが国の臨床分野での実践形態としては、より幅広い応用が含まれている。たとえ、狭義の「精神分析」を行わなくとも、ケースの、そしてセラピスト自身の内面を深く理解し、それを治療に活用していくことは、心理療法を進めていく上で非常に有用である。		
到達目標	1. 精神分析的心理療法・力動論に基づく心理療法の理論を説明できる。 2. 精神分析的心理療法の実践に必要な基礎的技法を説明できる。 3. 神分析的心理療法・力動論に基づく心理療法の理論を事例の理解に応用することができる。		

各回の授業内容と課題学習

以下、全回演習形式で進める。

1. 精神分析的心理療法とは
2. 症例テリー：work1
3. 症例テリー：work2
4. 症例テリー：work3
5. 症例テリー：work4
6. 症例テリー：work5
7. 症例テリー：work6
8. 症例テリー：work7
9. 症例テリー：work8
10. 症例テリー：work9
11. 症例テリー：work10
12. 症例テリー：work11
13. 性愛転移の取り扱い／抵抗の取り扱い／去り際の台詞の取り扱い
14. 素材分析 1
15. 素材分析 2

テキスト・教材	丸田俊彦著　1988　サイコセラピー練習帳Ⅱ―Dr. M への手紙　岩崎学術出版社		
参考書	丸田俊彦著　1986　サイコセラピー練習帳―グレーテルの宝捜し　岩崎学術出版社 グレン・O・ギャバード著　2012　精神力動的精神療法―基本テキスト　岩崎学術出版社		
評価の基準と方法	所定の出席数を満たした者について、出席点（4 点×15 回の計 60 点）、課題点（20 点×2 回の計 40 点）を評価する。なお、出席点には、内容解説、授業中のディスカッション等への取り組み態度を含む。		
授業開始前学習	学部等で精神分析について学んでいない者は、1 年次に「人格心理学特講」を先に履修しておくことが望ましい。 転移、逆転移、抵抗、対象関係などの基本用語については、簡単に復習しておくこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	当日のワークについては、その場で解説・フィードバックする。また、提出課題については、コメントを付けて返却する。		
準備学習（予習）	内容解説者は、その章の内容を説明できるよう準備しておくこと（ただし、当日分のテキストの章の練習問題とその解説は事前に「読まずに」参加する）。 なお、欠席した場合は、前の回で扱ったケースの流れについて、読み返しておくこと。		
準備学習（復習）	テキストの「練習問題」の解答について、復習する。		
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	◎	○	○
関連科目	人格心理学特講				
その他	公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、「心理支援に関する理論と実践」はⅠⅡⅢの全てを履修する必要がある。				

学校臨床心理特講（教育分野に関する理論と支援の展開）

科目名称	学校臨床心理特講（教育分野に関する理論と支援の展開）	科目分類	402-321-11
担当教員	綾城　初穂	授業区分	講義
オフィスアワー	前期　火曜日 14:40～17:40 後期　火曜日 14:40～17:40	研究室	10-714
授業のテーマ・内容	本授業では、教育領域において臨床心理学に基づいた援助を行う際に必要となる知見・知識を学ぶ。具体的には、生徒指導提要、サイコロジカルファーストエイド学校版、児童生徒の問題行動等の調査、障害のある子どもの教育支援の手引きなどを参照する。また、後半では、いじめをはじめとした学校における諸問題の対応について主にナラティヴセラピーに基づく考え方を扱う。受講者の発表、ディスカッション、体験的な取り組みなども行うため、受講生の積極的な参加が望まれる。		
到達目標	広く学校臨床に資する心理学的知見について習得し、学校現場の諸問題に対して理論的・実践的に理解できる。また、自身の考えをもとに他者と議論し、具体的な解決策を立案することができる。		

各回の授業内容と課題学習

第１回　　教育領域における臨床心理的援助とは何か
第２回 生徒指導提要①：前半
第３回 生徒指導提要②：後半
第４回 サイコロジカルファーストエイド学校版①：前半
第５回 サイコロジカルファーストエイド学校版②：後半
第６回 児童生徒の問題行動等の調査結果（最新版）：前半
第７回 児童生徒の問題行動等の調査結果（最新版）：後半
第８回 障害のある子どもの手引き：前半
第９回 障害のある子どもの手引き：後半
第１０回 学校の諸問題とナラティヴセラピーの基礎
第１１回 個人への支援（参考書：第３章　対立コーチング）
第１２回 関係への支援（参考書：第４章　メディエーション／第７章　修復的実践）
第１３回 学級への支援学級への支援（参考書：第８章　サークル会話／第 10 章　ガイダンス授業／第 11 章「暴力に向き合う」グループ）
第１４回 いじめへの対応（参考書：第 10 章　秘密いじめ対策隊）
第１５回 教員への支援（参考書：第６章　修復会議を開く）

テキスト・教材	スライド・配布資料を用いる。
参考書	ウィンズレイド，J. ウィリアムズ，M.（2016）．いじめ・暴力に向き合う学校づくり―対立を修復し，学びに変えるナラティヴ・アプローチ　新曜社.
評価の基準と方法	所定の出席数を満たした者について、小レポート（10 点×10 回）と授業内の発表によって評価する。
授業開始前学習	特に必要ない
授業内課題のフィードバックの方法	授業内の小レポートについては，次の授業時に全体に向けてフィードバックを行う。授業で課するレポート課題については，修正点やアドバイス等コメントを記載した上で返却する。
準備学習（予習）	前回までの講義レジュメを読んでおくこと。
準備学習（復習）	授業に関する資料の見返し
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。 心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。 心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎	△	

関連科目	
その他	正式科目名「学校臨床心理特講（教育分野に関する理論と支援の展開）」 公認心理師国家試験の受験資格を得るためには、本科目を履修する必要がある。 教室の都合により内容もしくは講義順序を一部変更する可能性がある。

ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｱﾌﾟﾛｰﾁ特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ）

科目名称	ｺﾐｭﾆﾃｨ･ｱﾌﾟﾛｰﾁ特講（家族関係･集団･地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ）	科目分類	402-321-11
担当教員	藤川　麗	授業区分	講義
オフィスアワー	前期　木曜日 13:00～14:30　金曜日 12:30～14:00 後期　木曜日 10:40～12:10　金曜日 12:30～14:00	研究室	10-712
授業のテーマ･内容	本授業では、集団や地域社会に働きかける心理学的援助に関する理論と方法として、グループ･アプローチとコミュニティ･アプローチの基本的理論と技法を学ぶ。ます、グループ･アプローチの歴史と発想を学び、代表的なグループ･アプローチの１つとしてソーシャル･スキル･トレーニングを体験する。次に、コミュニティ･アプローチの歴史と発想を学び、危機介入法、コンサルテーションといった方法をロールプレイやグループワークを通して体験的に学習する。		
到達目標	集団や地域社会に働きかけるための理論と視点を習得する。集団心理療法、コミュニティへの危機介入、他職種や関係者へのコンサルテーション等に必要な態度と基本的な技術を身につけ、実践することができる。		

各回の授業内容と課題学習

1．ガイダンス　グループ･アプローチの歴史と発想　（講義）
2．グループ･アプローチ　SST1（講義）
3．グループ･アプローチ　SST2（ロールプレイ）
4．グループ･アプローチ　SST２（ロールプレイ）
5．グループ･アプローチ　SST３（ロールプレイ）
6．グループ･アプローチの振り返りとまとめ
7．コミュニティ･アプローチの歴史と発想　（講義）
8．危機介入法１（講義）
9．危機介入法２（事例検討）
10．危機介入法３（ロールプレイ）
11．危機介入法の振り返り
12．コンサルテーション１（講義）
13．コンサルテーション２（事例検討）
14．コンサルテーション３（ロールプレイ）
15．コンサルテーションの振り返り、コミュニティ･アプローチの振り返りとまとめ

テキスト･教材	特に指定しない。		
参考書	植村勝彦･高畠克子･箕口雅博ほか編（2006）「よくわかるコミュニティ心理学」ミネルヴァ書房 山本和郎　（1986）「コミュニティ心理学―地域臨床の理論と実践」 東京大学出版会 藤 信子（2019）第２章 公認心理師が「集団」にかかわるために．野島一彦･岡村達也（監修)、布柴靖枝･板東充彦（著）公認心理師 実践ガイダンス ３「家族関係･集団･地域社会」木立の文庫 野島一彦（編）（1999）　現代のエスプリ 385 号「グループ･アプローチ」 至文堂		
評価の基準と方法	発表および授業内課題の提出（60 点）、授業への積極的貢献（30 点）、期末レポート（10 点）とする。		
授業開始前学習	参考書「よくわかるコミュニティ心理学」に目を通しておくこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	課題は授業内で発表し、グループ討議と教員からのコメントによってフィードバックを行う。		
準備学習（予習）	授業で提示される次回授業のキーワードについて調べておくこと。		
準備学習（復習）	授業内容を振り返り、疑問点について調べること。		
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎	△	○
関連科目					
その他	公認心理師対応科目である。				

科目名称	心の健康教育に関する理論と実践	科目分類	402-321-11
担当教員	飯田　敏晴	授業区分	講義
オフィスアワー	前期　月曜日 10:40～12:10　水曜日 13:00～14:30 後期　月曜日 10:40～12:10　水曜日 13:00～14:30	研究室	10-717
授業のテーマ・内容	心の健康教育は，公認心理師においては「心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供」，臨床心理士においては「臨床心理的地域援助」の 1 つに位置付けられる，重要な専門業務である。この授業では，個人を対象とした心の健康教育から、コミュニティ（家族・集団・社会）を対象とした教育までを扱い，基本的な理論を学ぶ。 つぎに，実際の心の健康教育を扱った実践研究を読み，様々な対象における心の健康教育の実際を知る。最後に，受講者自身が実際に心の健康教育プログラムを立案・実施する経験を通して，実際の現場での心の健		
到達目標	心の健康教育が求められている社会的な状況を理解する。多様な対象者に対する心の健康教育の実践について知識を得る。支援者のメンタルヘルスケアについて知識を得、セルフケアを実践することができるようになる。心の健康教育プログラムを自ら企画し、実践・評価するための基礎的な技能を習得する。		

各回の授業内容と課題学習

第 1 回　心の健康教育とは（第 1 章）
第 2 回　心の健康教育の歴史と背景（第 2 章）
第 3 回　持続可能な開発目標（SDGs）と心の健康（第 3 章）
第 4 回　予防としての心の健康教育（第 4 章）
第 5 回　ストレスマネジメントの理論と実践（第 5 章）
第 6 回　メンタルヘルス・リテラシー（第 6 章）
第 7 回　健康行動理論（第 7 章）
第 8 回　プログラム評価による心の健康教育とデザインと改善（第 8 章）
第 9 回　理論を実践に活かすモジュールの検討（第 9 章）
第 10 回　モデリングを通じて高める心の健康教育力（第 10 章）
第 11 回　心の健康教育プログラムの企画と実践 1　プログラムの企画
第 12 回　心の健康教育プログラムの企画と実践 2　プログラムの準備
第 13 回　心の健康教育プログラムの企画と実践 3　プログラムの実践 1
第 14 回　心の健康教育プログラムの企画と実践 4　プログラムの実践 2
第 15 回　プログラム評価　振り返り、レポートの提出

テキスト・教材	久田満・飯田敏晴（編）コミュニティ心理学シリーズ 1　心の健康教育　金子書房　2021 年		
参考書	授業中に随時紹介する。		
評価の基準と方法	発表 50 点、平常点（コメントシートの提出、授業への積極的貢献）30 点、レポート 20 点による。		
授業開始前学習	1）「心の健康教育」、「予防」、「ストレス・マネジメント」といったキーワードについて調べておく。 2）教科書の「はじめに」の部分をよく読むこと。		
授業内課題のフィードバックの方法	課題は授業内で発表し、グループ討議と教員からのコメント、コメントシートの共有によってフィードバックを行う。		
準備学習（予習）	・授業で提示される次回授業のキーワードについて調べておくこと。 ・教科書にあるいくつかの章は、履修者で分担の上で事前学習し、その成果を発表してもらう予定である。 ・各履修者は、各発表の 1 週間前に、発表担当者に疑問を寄せること。		
準備学習（復習）	・授業内容を振り返り、疑問点について調べること。 ・発表者に、コメントシートを用いて、フィードバックをすること。 ・発表者は、他履修者より得たコメントを踏まえて、振り返ること。		
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。

学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		○	◎	△	
関連科目	公認心理師対応科目である。				
その他	グループワークやペア・ワークを多く実施するため、積極的な参加を期待する。 なお第 13 回、第 14 回では、発表者がプログラム実施者となるが、 他履修者は、その受益者を想定してロールプレイ（役割演技）してもらうので、留意すること。				

科目名称	臨床心理学研究実践Ⅰ	科目分類	402-310-21
担当教員	綾城・飯田・田中・藤川・藤城・冨士原・丸山・依田	授業区分	演習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	臨床心理研究実践Ⅰでは、主に修士論文の計画から調査の実施までの過程を進めていくための指導が中心になる。自分の研究テーマに関する先行研究をていねいに読み込み、問題意識をどのように概念化していくか、それをどのように研究方法に結びつけるかということに焦点をあてる。		
到達目標	①自分の研究テーマに関する文献を集め、先行研究の流れの中で自分の問題意識を明確にできる。 ②問題意識を具体的に概念化できる。 ③概念化した問題意識を明確にしうる適切な方法を選定できる。		

各回の授業内容と課題学習

以下、教員との双方向指導、院生同士のディスカッションを含む。

なお、以下の流れは例であり、研究テーマや方法論によって実際の進め方は異なるが、前期の「修士論文構想発表会」（2 コマ）、後期の「倫理審査の申請」（2 コマ）、「修士論文予備審査会」（2 コマ）、「修士論文公開審査会」（2 コマ）は全員必須（主査・副査以外も含め全教員で対応）である。日程の詳細は、追って提示する。

1. 研究テーマについて
2. テーマに関する文献の収集：インターネットの活用
3. テーマに関する文献の収集：データベースの活用
4. テーマに関する文献の収集：図書館の活用
5. 文献の読込：関連する先行研究の流れをつかむ
6. 文献の読込：自分のテーマを位置づける
7. 文献の読込：概念化のヒントをつかむ
8. 仮説の生成：探索的な仮説生成
9. 仮説の生成：理論的な仮説生成
10. 研究デザインの検討
11. 研究デザインの決定
12. 研究計画の立案
13. 【修士論文構想発表会】発表・参加①
14. 【修士論文構想発表会】発表・参加②
15. 発表を踏まえての再検討：理論構成
16. 発表を踏まえての再検討：方法の吟味
17. 【倫理審査の申請】作成・提出①
18. 【倫理審査の申請】作成・提出②
19. 予備調査等の準備
20. 【修士論文予備審査会】参加①
21. 【修士論文予備審査会】参加②
22. 予備調査等の実施
23. 予備調査等の分析
24. 予備調査等を踏まえて本調査等の検討①理論構成
25. 予備調査を踏まえて本調査等の検討②方法の吟味
26. 本調査等の準備
27. 【修士論文公開審査会】参加①
28. 【修士論文公開審査会】参加②
29. 本調査等の実施
30. 本調査等の実施

テキスト・教材	必要に応じて指示する。

参考書	必要に応じて指示する。				
評価の基準と方法	自らの研究活動に対する主体的取り組み、及び、担当教員を含む他者とのディスカッション（40%）、修士論文構想発表会での発表（60%）とする。 なお、修士論文構想発表会での発表（抄録等の提出を含む）・参加、及び、修士論文予備審査会への参加、修士論文公開審査会への参加は必須である。				
授業開始前学習	自らの研究テーマについて調べること。また、基本的な研究方法について理解しておくこと。				
授業内課題のフィードバックの方法	基本的に指導は対話を通して行うため、随時フィードバックを行う。				
準備学習（予習）	自ら立てた研究計画に沿って、次の授業の準備を進めること。				
準備学習（復習）	授業の中で得たコメントを踏まえ、自らの研究を進めること。				
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。		
学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	○	○	◎
関連科目	臨床心理学研究実践Ⅱ				
その他	「臨床心理学研究実践Ⅰ」は、通年の集中講義である。日程の詳細は、後日提示する。 指導教員以外に、副査（副査が指導教員の場合は主査）や、研究テーマや方法論に詳しい教員からも、積極的に指導を受けること。 なお、作成する論文の指導は、別途、修論指導の指導教員から受けることとなる。				

科目名称	臨床心理学研究実践Ⅱ	科目分類	402-310-22
担当教員	綾城・飯田・田中・藤川・藤城・冨士原・丸山・依田	授業区分	演習
オフィスアワー	-	研究室	-
授業のテーマ・内容	臨床心理研究実践Ⅱでは、主に研究実施から分析、考察、論文作成までの過程を進めていくための指導が中心になる。自分の研究で得られた結果を適切な手法で分析し、先行研究の流れの中に位置づけつつ、問題意識と照らし合わせながら考察を深め、最終的な結論を得ることに焦点をあてる。		
到達目標	①問題意識を明確にしうる適切な方法でデータを収集できる。 ②得られたデータを適切な手法で分析できる。 ③先行研究の流れの中に位置づけつつ、問題意識と照らし合わせながら考察を深め、最終的な結論を得ることができる。		

各回の授業内容と課題学習

以下、教員との双方向指導、院生同士のディスカッションを含む。

なお、以下の流れは例であり、研究テーマや方法論によって実際の進め方は異なるが、前期の「修士論文構想発表会」（2 コマ）、後期の「修士論文予備審査会」（2 コマ）、「修士論文公開審査会」（2 コマ）、「紀要論文の作成・提出」（2 コマ）は全員必須（主査・副査以外も含め全教員で対応）である。日程の詳細は、追って提示する。

1. 本調査等の実施
2. 本調査等の実施
3. 本調査等の実施
4. 結果の分析
5. 結果の分析
6. 結果の分析
7. 結果の分析
8. 結果の分析
9. 結果の分析
10. 結果の解釈
11. 結果の解釈
12. 結果の解釈
13. 【修士論文構想発表会】参加①
14. 【修士論文構想発表会】参加②
15. 考察の作成・検討
16. 考察の作成・検討
17. 考察の作成・検討
18. 修士論文予備審査会：抄録作成
19. 修士論文予備審査会：スライド作成
20. 【修士論文予備審査会】発表・参加①
21. 【修士論文予備審査会】発表・参加②
22. 予備審査を踏まえての再検討
23. 予備審査を踏まえての再検討
24. 予備審査を踏まえての再検討
25. 修士論文公開審査会：抄録作成
26. 修士論文公開審査会：スライド作成
27. 【修士論文公開審査会】発表・参加①
28. 【修士論文公開審査会】発表・参加②
29. 【紀要論文】作成・提出①
30. 【紀要論文】作成・提出②

テキスト・教材	必要に応じて指示する。

参考書	必要に応じて指示する。				
評価の基準と方法	修士論文予備審査会での発表・参加（40%）、修士論文公開審査会での発表・参加（40%）、紀要論文の作成・提出（20%）で評価する。 なお、修士論文予備審査会での発表（抄録等の提出を含む）・参加、及び、修士論文公開審査会での発表（抄録等の提出を含む）・参加、紀要論文提出は必須である。				
授業開始前学習	自らの研究テーマについて調べること。また、必要な分析方法について理解しておくこと。さらに、求められている執筆要項を確認しておくこと。				
授業内課題のフィードバックの方法	基本的に指導は対話を通して行うため、随時フィードバックを行う。				
準備学習（予習）	自ら立てた研究計画に沿って、次の授業の準備を進めること。				
準備学習（復習）	授業の中で得たコメントを踏まえ、自らの研究を進めること。				
ディプロマポリシー	心理学に関する総合的知識、及び高度な問題意識を有する人材の育成。	心理に関する支援を要する者に対して、観察、分析を行い、相談に応じ、助言、指導その他の援助ができる実践力、及び技術力の養成。	心理学の領域を活かし、研究、及び社会で活躍できるための専門力の養成。		
学修指針	総合力	判断力	専門力	技術力	実践力
科目の該当		△	○	○	◎
関連科目	臨床心理学研究実践Ⅰ				
その他	「臨床心理学研究実践Ⅱ」は、通年の集中講義である。日程の詳細は、後日提示する。 指導教員以外に、副査（副査が指導教員の場合は主査）や、研究テーマや方法論に詳しい教員からも、積極的に指導を受けること。 なお、作成する論文の指導は、別途、修論指導の指導教員から受けることとなる。				